

久御山町まちづくりアンケート

調査結果報告書

～ 第5次総合計画策定に向けて ～

目 次

久御山町まちづくりアンケート実施概要	1
住民アンケート調査結果	3
中高生アンケート調査結果	19
はたらく人へのアンケート調査結果	28

平成26年11月

久 御 山 町

久御山町まちづくりアンケート実施概要

1. 目 的

町政運営の基本となるまちの将来像を明らかにし、これを達成するための基本方針を示す総合計画の見直しに当たり、社会経済情勢の変化に的確に対応していくため、住民等の町に対する意識や定住意向等についてアンケート調査を行い、その調査結果を次期総合計画「第5次総合計画」の策定に反映することを目的とする。

2. 実施アンケート

(1) 住民アンケート

- ① 対象者： 20歳以上（基準日：平成26年6月15日）の住民2,470人を住民基本台帳から無作為抽出した者
- ② 調査日： 平成26年7月1日（火）～7月15日（火）（約2週間）
- ③ 配布・回収方法： 郵送により配布・回収を行う。

(2) 中高生アンケート

- ① 対象者： 久御山中学校3年生、久御山高等学校3年生
- ② 調査日： 平成26年7月上旬
- ③ 配布・回収方法： 各クラスの担任により直接配布・回収する。

(3) はたらく人へのアンケート

- ① 対象者： 町内事業所の就業者（主に従業者向け）
- ② 調査日： 平成26年8月18日（月）～9月10日（水）（約3週間）
- ③ 配布・回収方法：
 - ※ 商工会会員企業（約780社）及び町内企業から抽出した事業所へ調査票を一定部数郵送し、社内で配布・取りまとめいただき、返信用封筒により回収する。
 - ※ 町ホームページからアンケート回答ページにアクセスし、入力回答する。

(回収率等)

	配布数	回収数	回収率	備 考
(1) 住民アンケート	2,470	913	37.0%	・抽出時点の20歳以上住民は、13,318人中2,500人 ・配布数は転出等の戻り除く
(2) 中高生アンケート	459	459	100%	・配布数は欠席者除く ・久御山中学校3年生 161人 ・久御山高校3年生 316人 計 477人
中学3年生	146	146	100%	
高校3年生	313	313	100%	
(3) はたらく人へのアンケート 事業所数	368	143	38.9%	・配布事業所数は商工会会員(351)、非会員(17) ・町内事業所数は、1,678事業所(H21 経済センサス) ・町内就業者数は、19,455人(H22 国勢調査)
就業者数 計	—	1,036	—	
調査票による回答	2,806	1,027	36.6%	
ホームページによる回答	—	9	—	

- (注) ① 表・グラフ中の数字は、単位未満を四捨五入しているため、合計と内訳が一致しない場合があります。
 ② 回答の比率(%)は、該当質問の回答者数を基数として算出しています。そのため、複数回答の場合は、すべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。

住民アンケート調査結果

I. 調査概要

1. 目的

- 次期総合計画を策定するに当たり、これまでのまちづくりへの評価や意見を把握し、計画に反映するため、町内住民を対象としてアンケート調査を実施する。

2. 調査対象

- 町内に居住する満 20 歳以上（基準日：平成 26 年 6 月 15 日）の方の中から、住民基本台帳をもとに無作為抽出した 2,470 人

3. 調査日

- 平成 26 年 7 月 1 日（火）～7 月 15 日（火）の約 2 週間

4. 調査方法

- 郵送配布、郵送回収

5. 調査内容

項目	内 容
回答者の属性	○性別、○年齢、○職業
居住地・定住意向	○居住地、○居住年数、○久御山町に住んでいる理由、○定住意向、○住み続けたい理由、○住み替えたい理由
まちづくりの評価	○定住や交流の基盤に関すること、○産業に関すること、○教育に関すること、○生涯学習や文化に関すること、○福祉や健康に関すること、○環境や安全・安心に関すること、○住民の協働や行財政に関すること
次期総合計画に求めること	○まちの将来像、○土地利用で重視すること、○地域産業の活性化のために、重視すべき取り組み、○まちの安全・安心について、重視すべき取り組み
行政と住民の協働	○行政サービスと住民の負担のバランスについて、○久御山町内のまちづくりや計画への関心、○住民や公益活動団体、事業者及び行政の「協働」への参加、○「協働」の取り組みに参加したい分野
久御山町の魅力	○久御山町の魅力
自由回答	○自由回答

6. 回収数

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
全 体	2,470	913	913	37.0%

II. 調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別（問1）

○ 「女性」が56.6%を占めており、「男性」の43.4%より大きくなっています。

	実数	構成比(%)
男性	396	43.4%
女性	517	56.6%
無回答	0	0.0%
計	913	100.0%

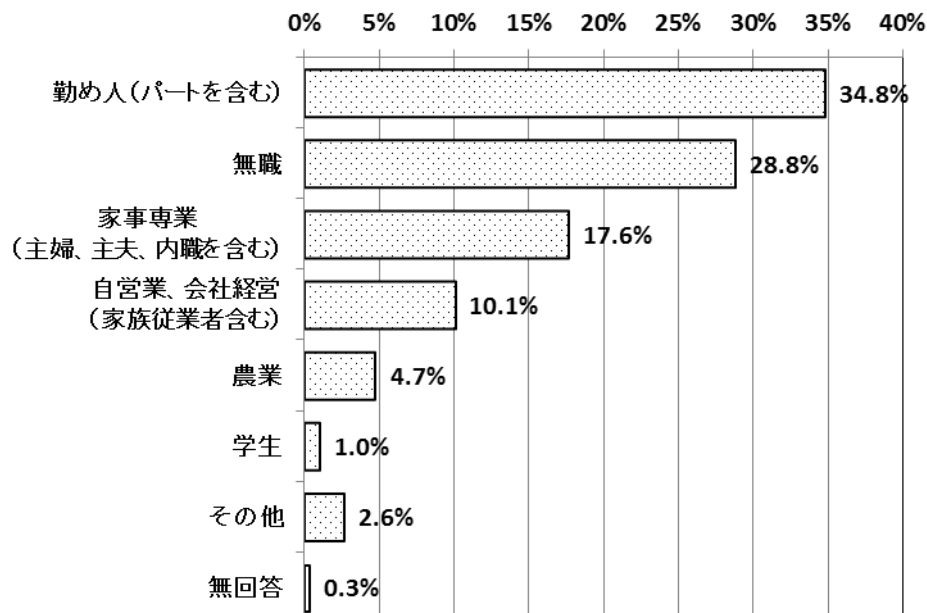
(2) 年齢（問2）

○ 「70歳以上」が32.1%で最も高く、次いで「60～69歳」が26.8%です。「20～29歳」は5.1%で最も低くなっています。

	実数	構成比(%)
20～29歳	47	5.1%
30～39歳	118	12.9%
40～49歳	109	11.9%
50～59歳	101	11.1%
60～69歳	245	26.8%
70歳以上	293	32.1%
無回答	0	0.0%
計	913	100.0%

(3) 職業（問3）

○ 「勤め人（パートを含む）」が34.8%で最も高く、続いて「無職」が28.8%、「家事専業（主婦、主夫、内職を含む）」が17.6%を占めています。



2. 居住地・定住意向

(1) 居住地（問4）

- 「東角校区」が38.1%で最も高く、「佐山校区」は37.9%、「御牧校区」は23.9%を占めています。

	実数	構成比(%)
御牧校区	218	23.9%
佐山校区	346	37.9%
東角校区	348	38.1%
無回答	1	0.1%
計	913	100.0%

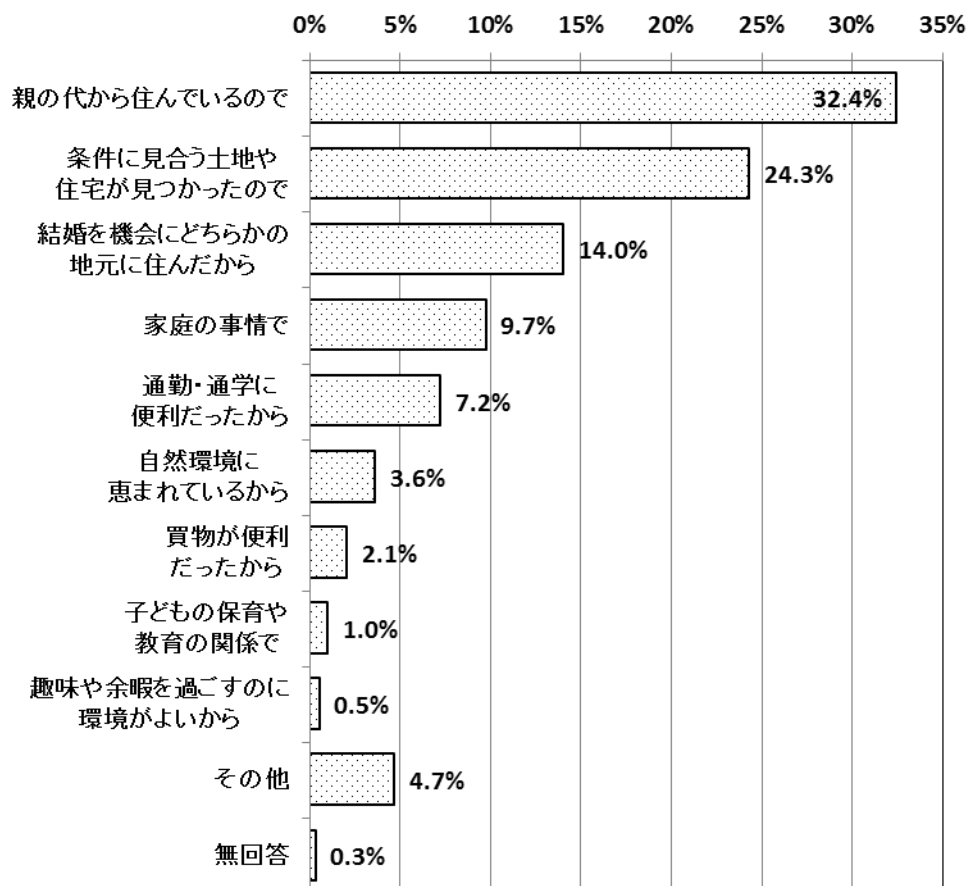
(2) 居住年数（問5）

- 「20年以上」が75.8%と約3/4を占めています。

	実数	構成比(%)
5年未満	59	6.5%
5年以上10年未満	51	5.6%
10年以上20年未満	111	12.2%
20年以上	692	75.8%
無回答	0	0.0%
計	913	100.0%

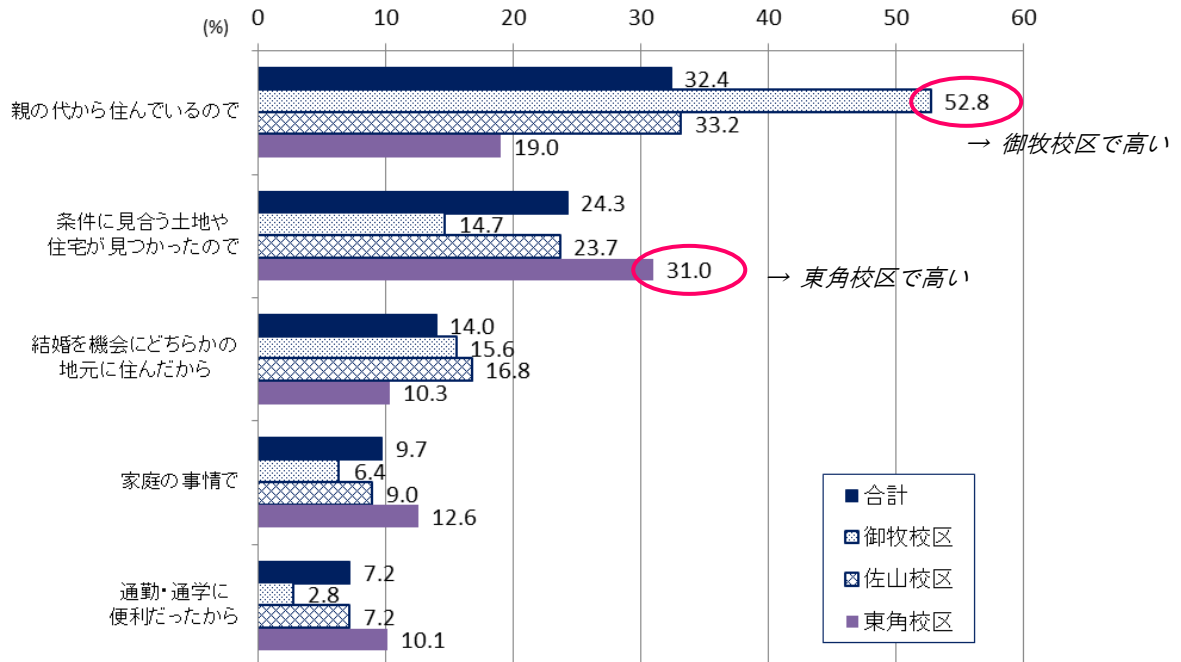
(3) 久御山町に住んでいる理由（問6）

- 「親の代から住んでいるので」が32.4%で最も高く、続いて「条件に見合う土地や住宅が見つかったので」が24.3%を占めています。



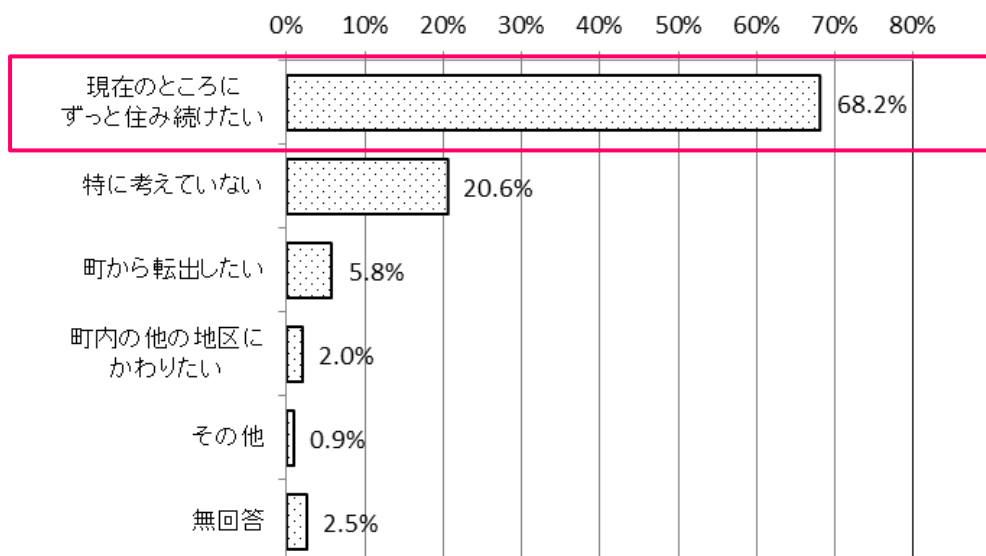
▶ 久御山町に住んでいる理由（居住地別集計・主なもの）

- 御牧校区では、「親の代から住んでいるので」が52.8%と過半数を越えており、他校区より高くなっています。
- 佐山校区では、「結婚を機会にどちらかの地元に住んだから」が16.8%であり、他校区より高くなっています。
- 東角校区では、「条件に見合う土地や住宅が見つかったので」が31.0%、「家庭の事情で」が12.6%、「通勤・通学に便利だったから」が10.1%であり、他校区より高くなっています。



(4) 久御山町での定住意向（問7）

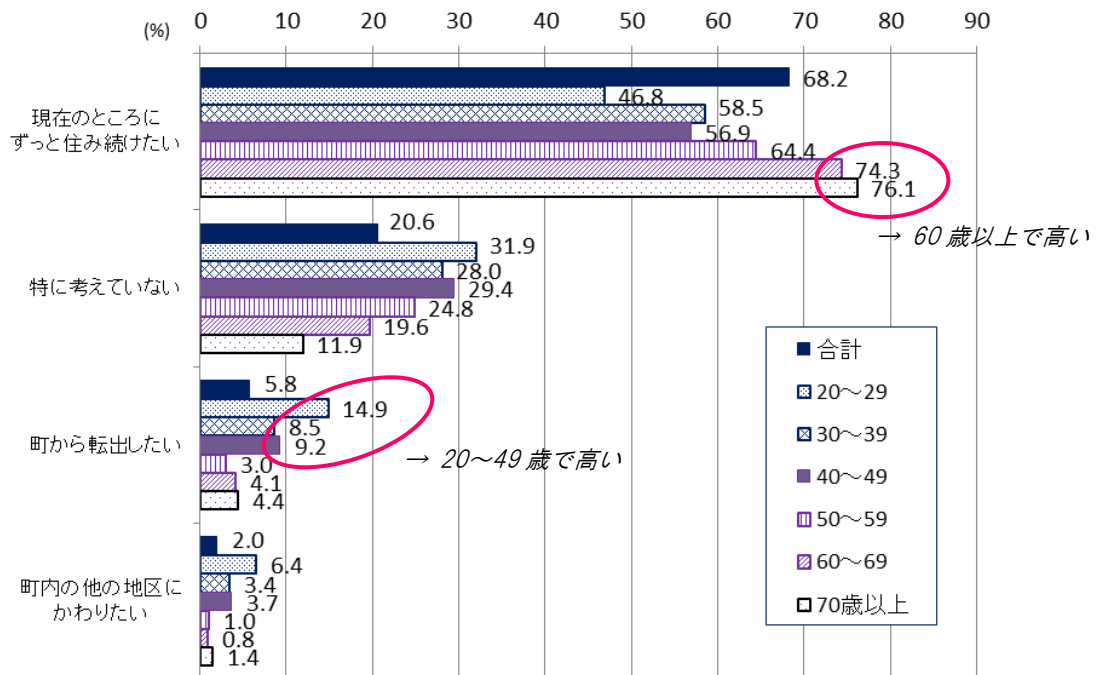
- 「現在のところにずっと住み続けたい」が最も高く、約7割（68.2%）を占めています。次いで「特に考えていない」が20.6%となっています。



- 「現在のところにずっと住み続けたい」は、平成16年のアンケート調査では77.0%と、この10年間で約9ポイント減少しています。

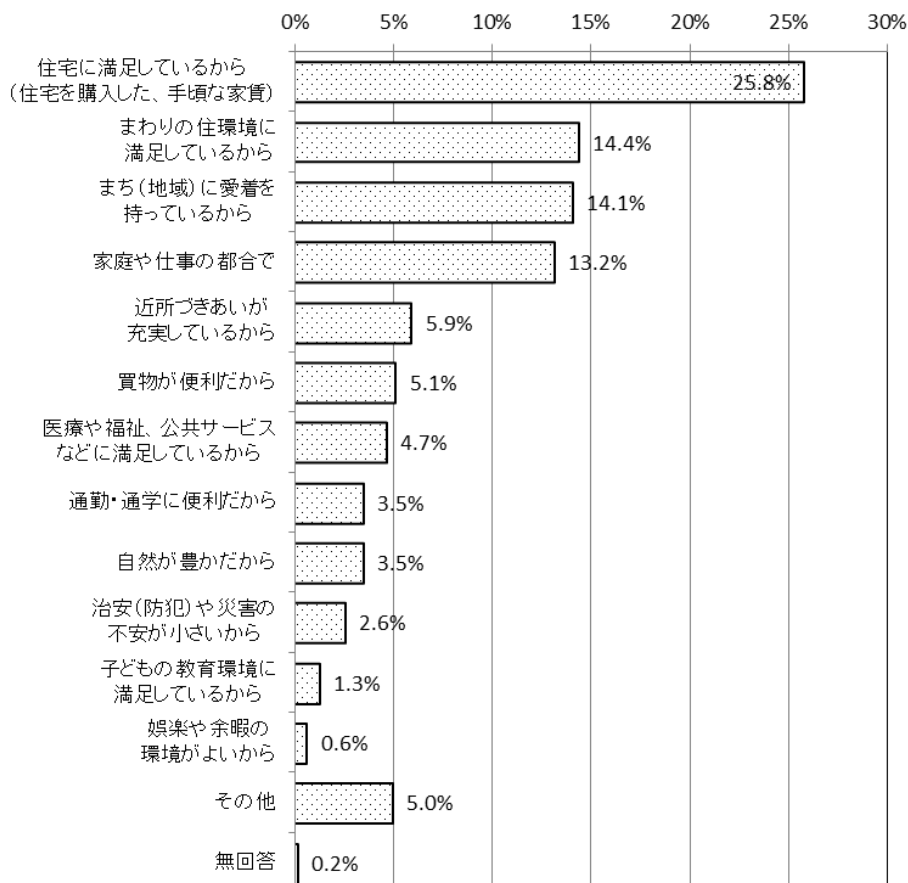
▶ 久御山町での定住意向（年齢別集計・主なもの）

- 20～29 歳、30～39 歳、40～49 歳では、「町から転出したい」、「町内の他の地区にかわりたい」及び「特に考えていない」が他年齢階層より高くなっています。
- 60～69 歳、70 歳以上では、「現在のところにずっと住み続けたい」が7 割以上を占めており、他年齢階層より高くなっています。



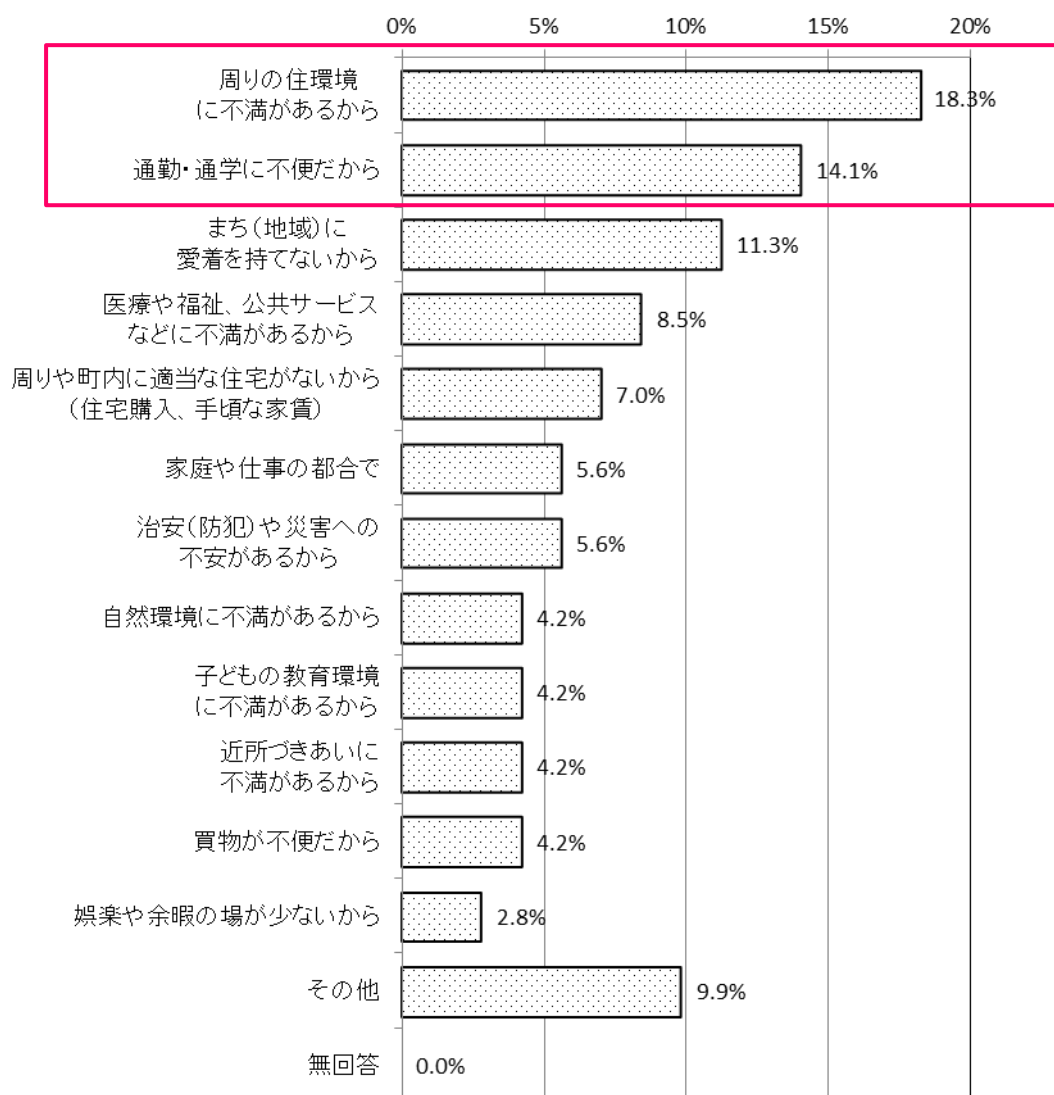
(5) 住み続けたい理由（問8）

- 定住意向で「現在のところにずっと住み続けたい」と回答した人について、住み続けたい理由を聞いたところ、「住宅に満足しているから（住宅を購入した、手頃な家賃）」が 25.8%で最も高くなっています。



(6) 住み替えたい理由(問9)

- 定住意向で「町内の他の地区にかわりたい」「町から転出したい」と回答した人に、住み替えたい理由を聞いたところ、「周りの住環境に不満があるから」が18.3%で最も高く、次いで「通勤・通学に不便だから」が14.1%を占めています。

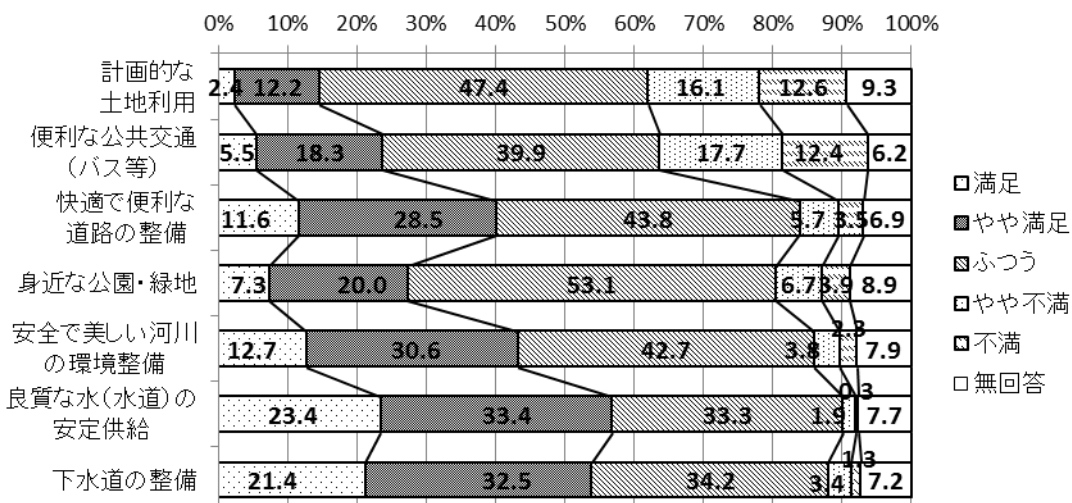


- 10年前の調査と比較すると、同様に「周りの住環境に不満があるから」(H16:28.8%)が最も高く、次いで「通勤・通学に不便だから」(H16:16.8%)となっていますが、ポイントはそれぞれ減少しています。

3. まちづくりの評価（問 10）

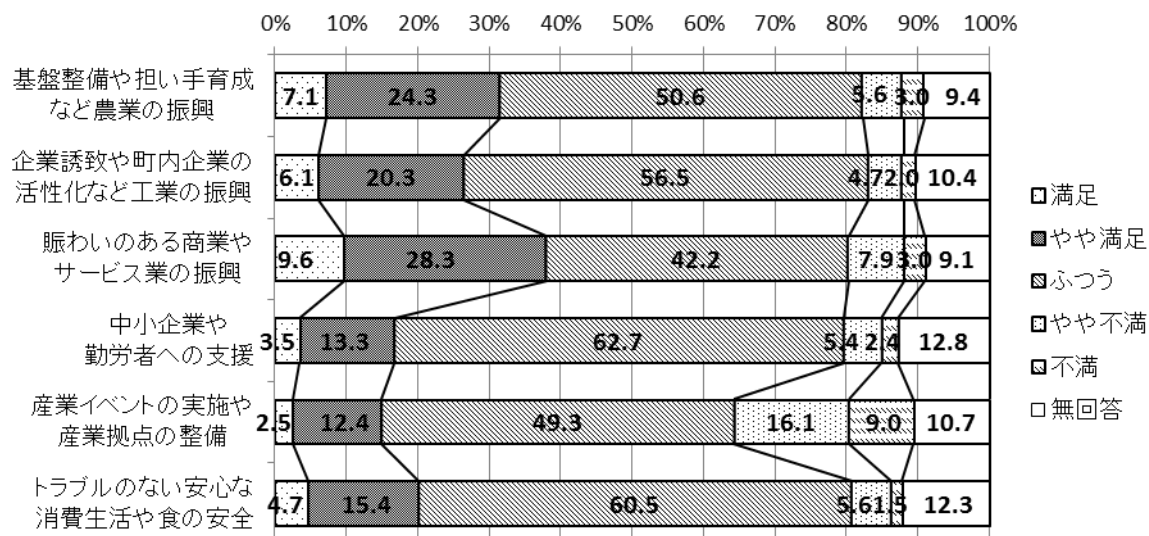
（１）定住や交流の基盤に関すること

- 「計画的な土地利用」及び「便利な公共交通（バス等）」については、「満足」・「やや満足」の合計がそれぞれ 14.6%、23.8%あり、他の項目と比べて満足している住民が少ないと考えられます。



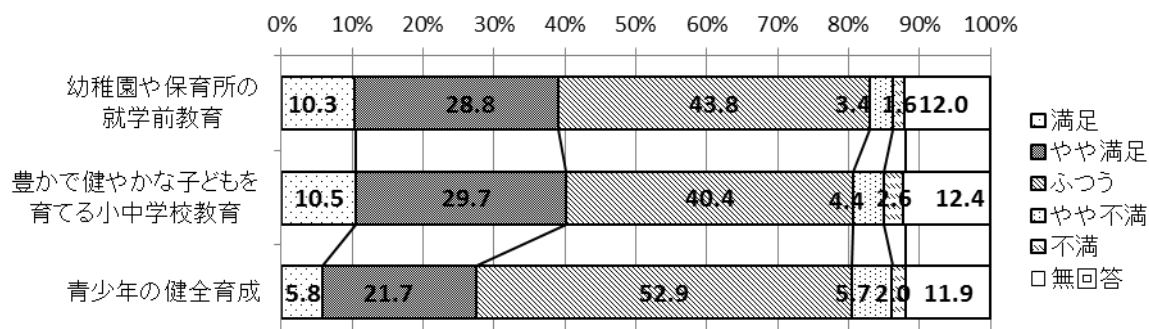
（２）産業に関すること

- 「賑わいのある商業やサービス業の振興」については、「満足」・「やや満足」の合計値が 37.9%あり、比較的満足している住民が多いと考えられます。



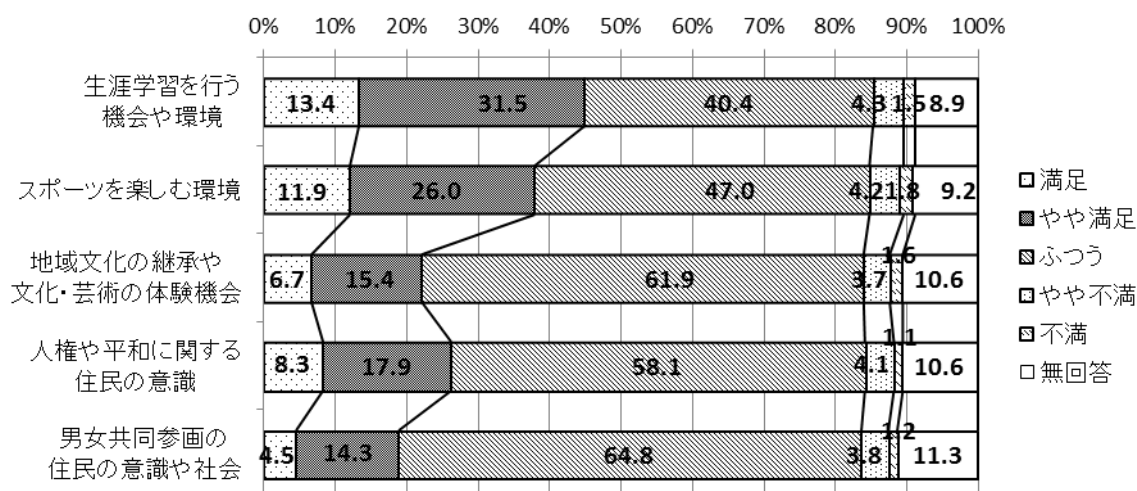
（３）教育に関すること

- 「幼稚園や保育所の就学前教育」及び「豊かで健やかな子どもを育てる小中学校教育」については、「満足」・「やや満足」の合計が 40%近くあり、他の項目と比べて満足している住民が多いと考えられます。



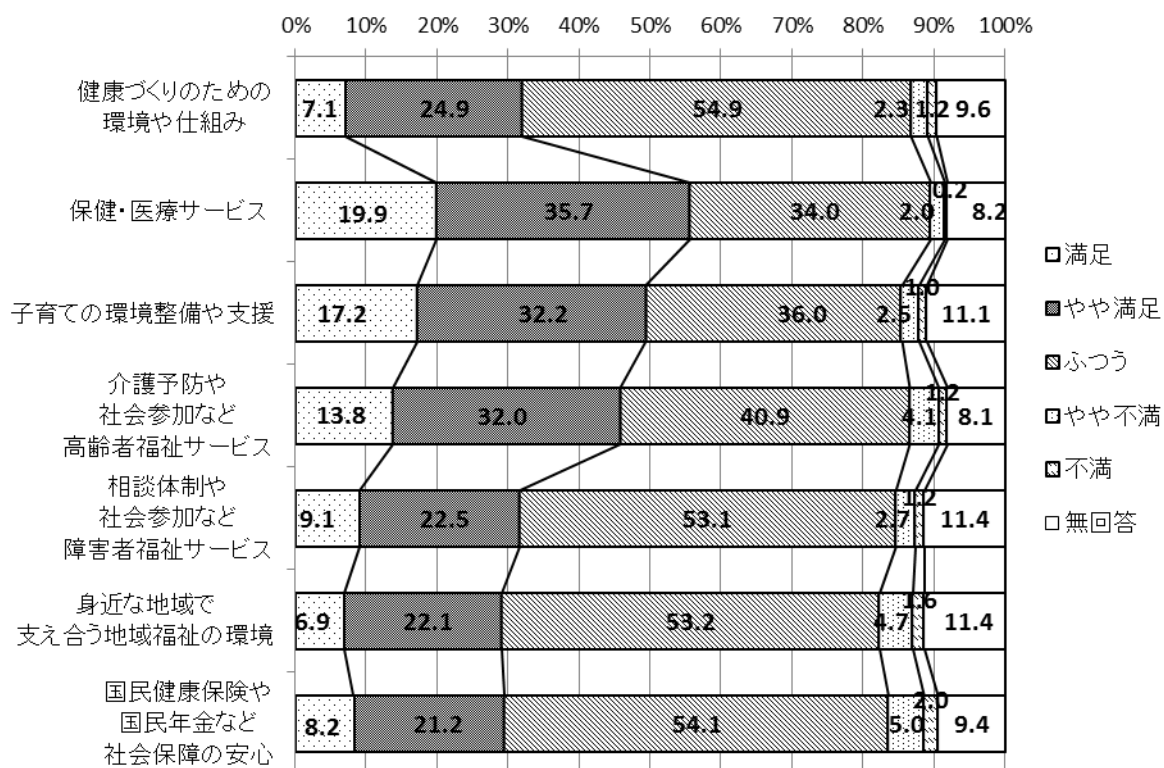
(4) 生涯学習や文化に関すること

- 「生涯学習を行う機会や環境」及び「スポーツを楽しむ環境」については、「満足」・「やや満足」の合計が40%前後あり、他の項目と比べて満足している住民が多いと考えられます。



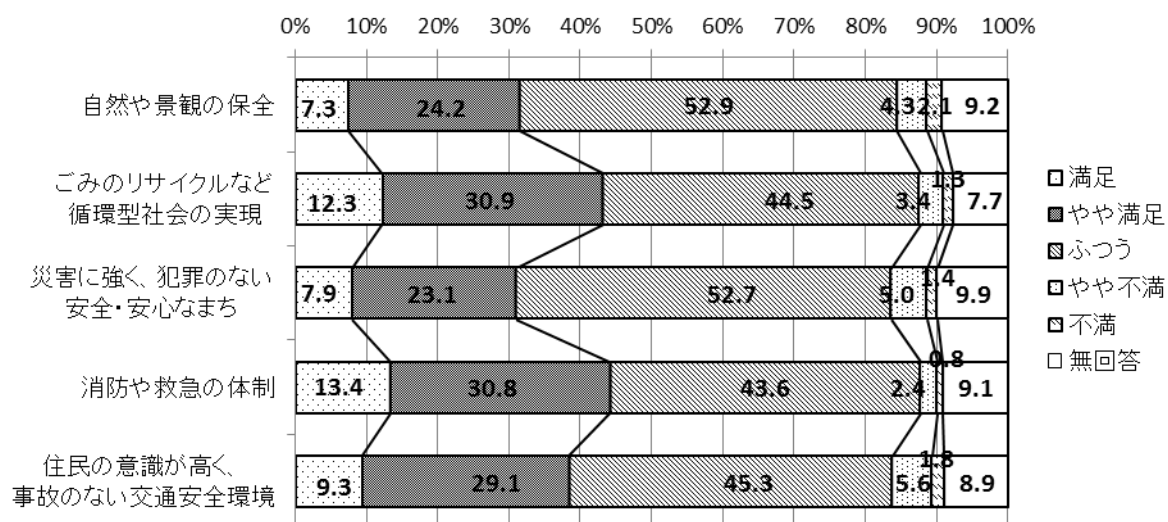
(5) 福祉や健康に関すること

- 「保険・医療サービス」、「子育ての環境整備や支援」及び「介護予防や社会参加など高齢者福祉サービス」については、「満足」・「やや満足」の合計が45%以上あり、他の項目と比べて満足している住民が多いと考えられます。



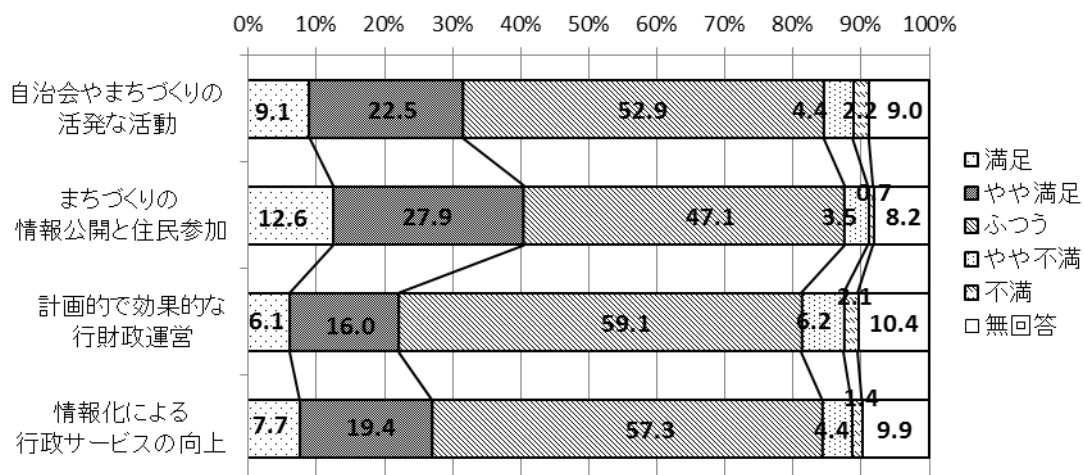
(6) 環境や安全・安心に関すること

- 「ごみのリサイクルなど循環型社会の実現」及び「消防や救急の体制」については、「満足」・「やや満足」の合計が43%以上あり、他の項目と比べて満足している住民が多いと考えられます。



(7) 住民の協働や行財政に関すること

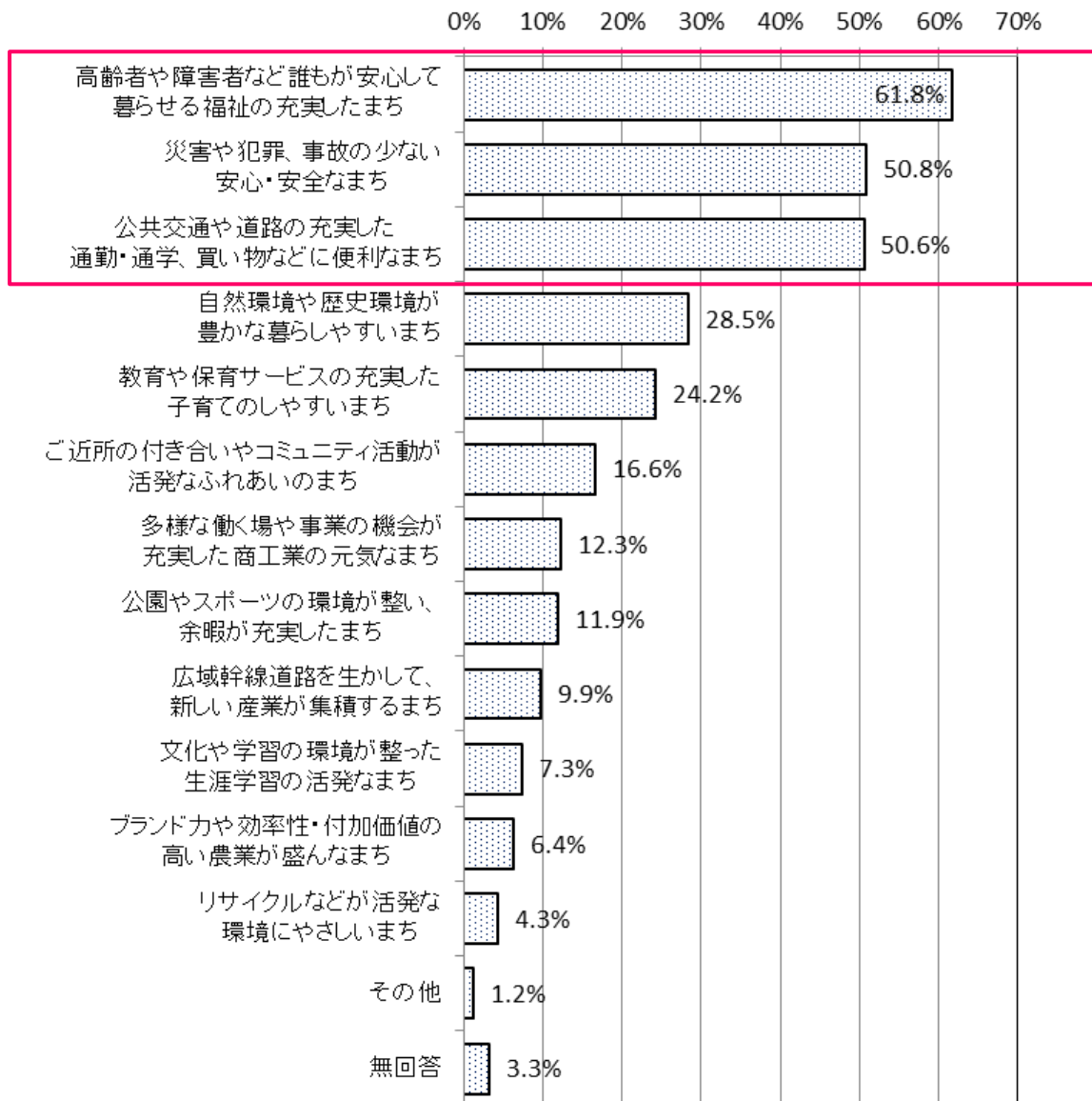
- 「まちづくりの情報公開と住民参加」については、「満足」や「やや満足」が40.5%と他の項目と比べて評価が高く、満足している住民が多いと考えられます。



4. 次期総合計画に求めること

(1) まちの将来像（問 11、複数回答）

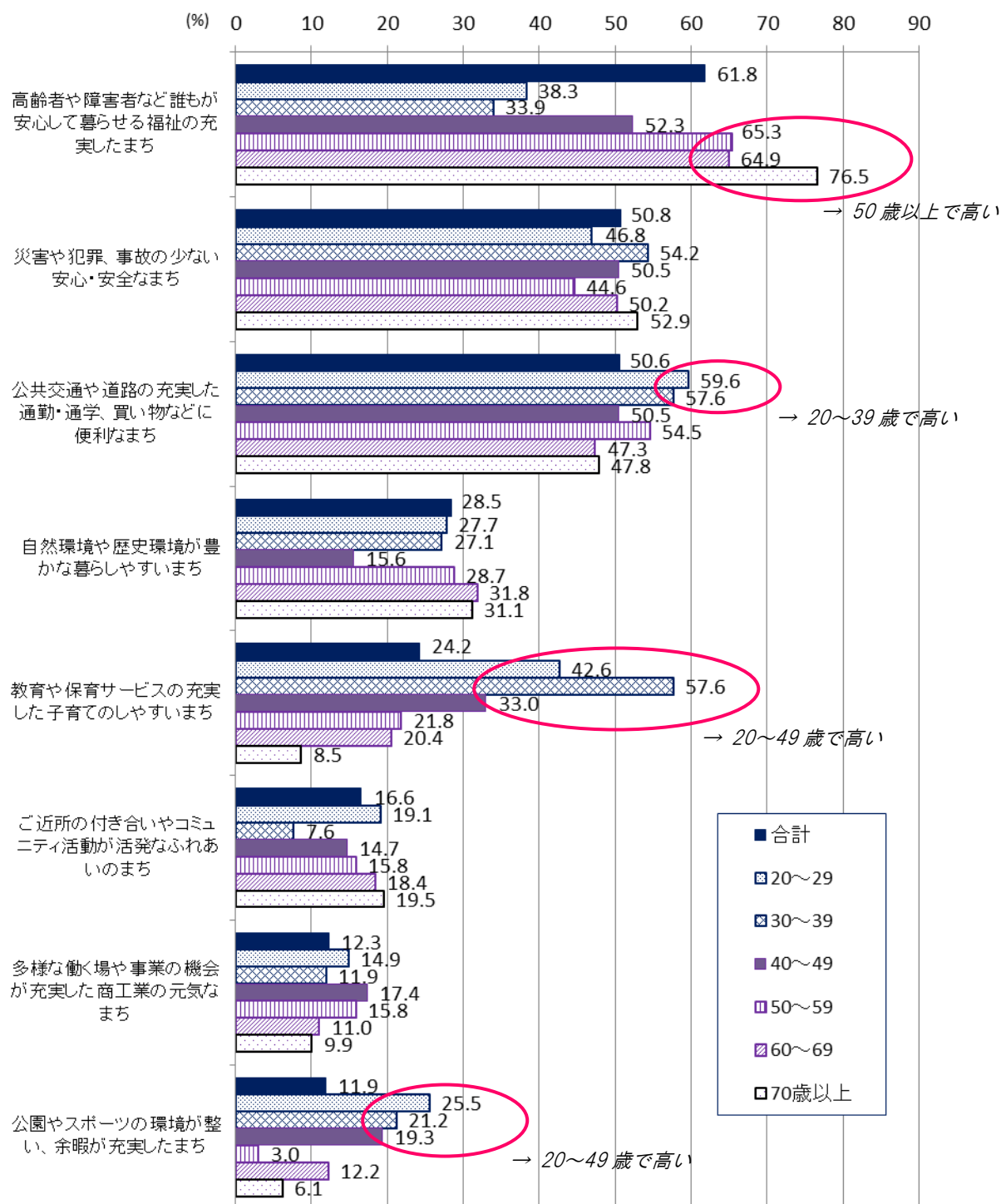
- 「高齢者や障害者など誰もが安心して暮らせる福祉の充実したまち」が 61.8%で最も高く、次いで「災害や犯罪、事故の少ない安心・安全なまち」が 50.8%、「公共交通や道路の充実した通勤・通学、買い物などに便利なまち」が 50.6%を占めています。
- 「リサイクルなどが活発な環境にやさしいまち」が 4.3%で最も低く、「ブランド力や効率性・付加価値の高い農業が盛んなまち」が 6.4%、「文化や学習の環境が整った生涯学習の活発なまち」が 7.3%、「広域幹線道路を生かして、新しい産業が集積するまち」が 9.9%と、10%以下となっています。



- 10 年前調査と比較すると、「災害や犯罪、事故の少ない安心・安全なまち」（H16：60.3%）は約 10 ポイント減少していますが、「高齢者や障害者など誰もが安心して暮らせる福祉の充実したまち」（H16：53.7%）は約 8 ポイント増加し、今回調査で最も高くなっています。
- 「公共交通や道路の充実した通勤・通学、買い物などに便利なまち」（H16：41.8%）は約 9 ポイント増加しています。
- 「自然環境や歴史環境が豊かな暮らしやすいまち」（H16：28.3%）や「教育や保育サービスの充実した子育てのしやすいまち」（H16：20.5%）については、10 年前とあまり大きく変化していません。

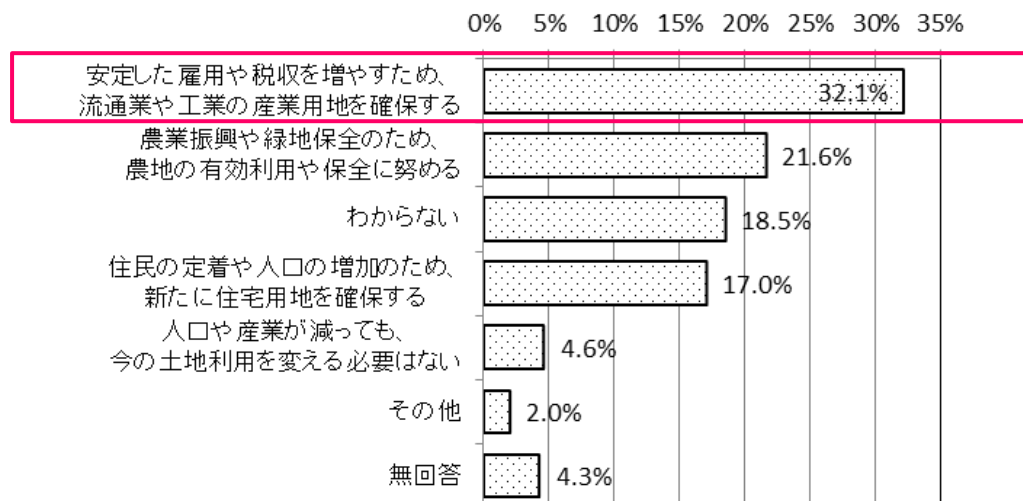
▶ まちの将来像（年齢別集計・主なもの）

- 20～29 歳、30～39 歳では「公共交通や道路の充実した通勤・通学、買い物などに便利なまち」が他年齢階層より高くなっています。また、「教育や保育サービスの充実した子育てのしやすいまち」や「公園やスポーツの環境が整い、余暇が充実したまち」では、合わせて 40～49 歳でも高くなっています。
- 50～59 歳、60～69 歳、70 歳以上では「高齢者や障害者など誰もが安心して暮らせる福祉の充実したまち」が約 64%以上であり、他年齢階層より高くなっています。



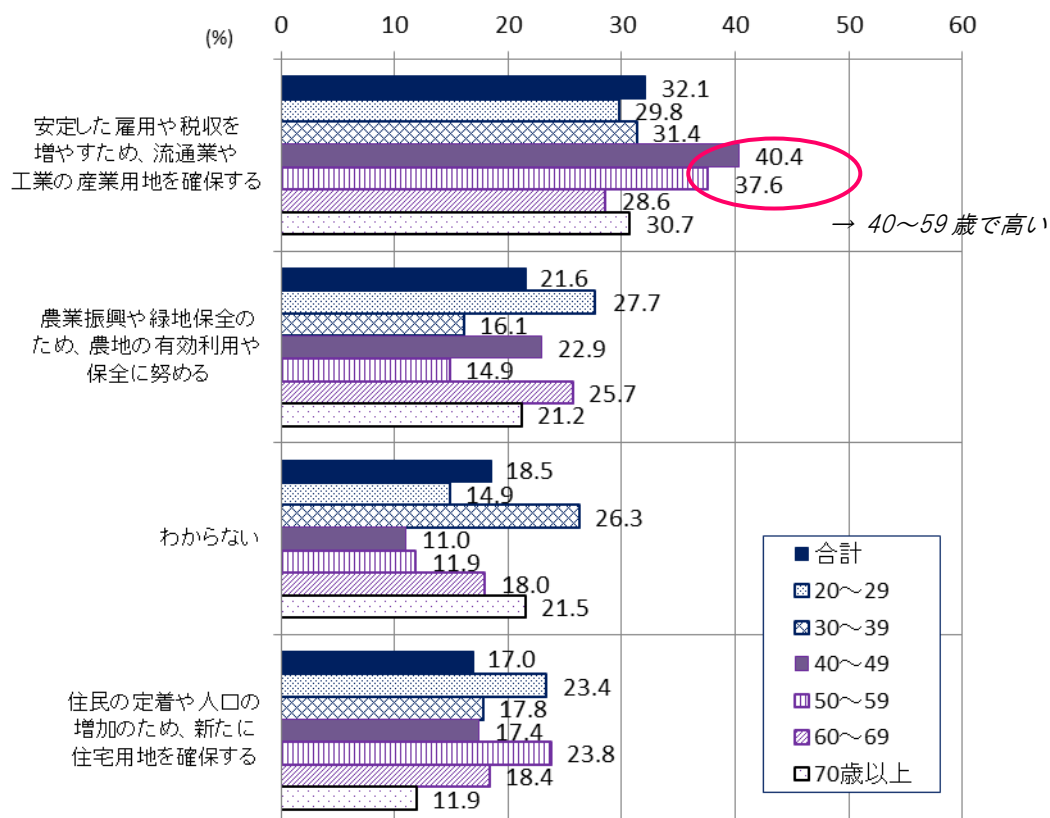
(2) 土地利用で重視すること (問 12)

- 「安定した雇用や税収を増やすため、流通業や工業の産業用地を確保する」が 32.1%で最も高くなっています。次いで「農業振興や緑地保全のため、農地の有効利用や保全に努める」が 21.6%を占めています。
- 「人口や産業が減っても、今の土地利用を変える必要はない」は 4.6%と低くなっています。



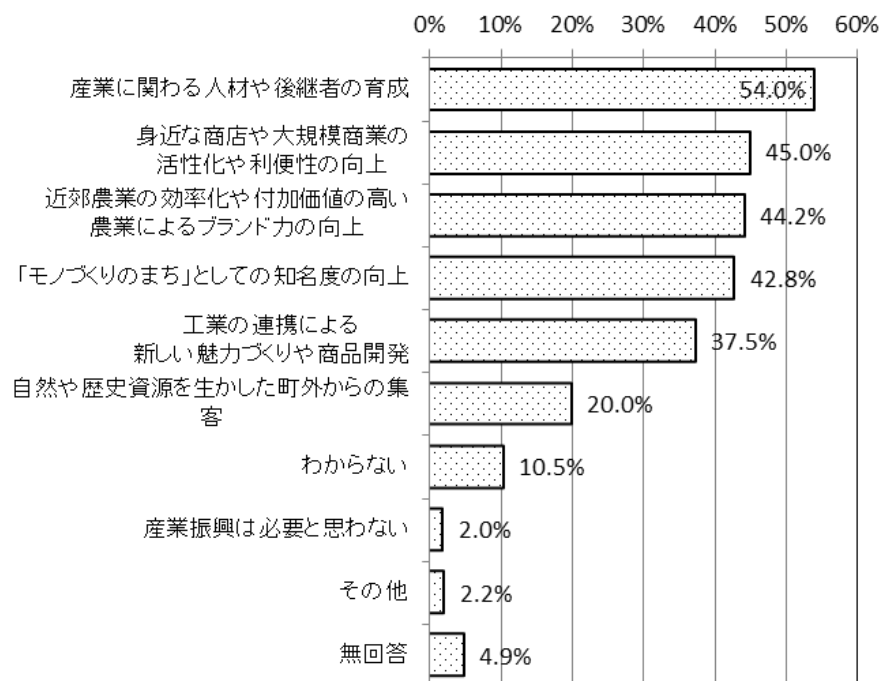
▶ 土地利用で重視すること (年齢別集計・主なもの)

- 20～29 歳では「農業振興や緑地保全のため、農地の有効利用や保全に努める」や「住民の定着や人口の増加のため、新たに住宅用地を確保する」が他年齢階層より高くなっています。
- 40～49 歳、50～59 歳では「安定した雇用や税収を増やすため、流通業や工業の産業用地を確保する」が 37%以上であり、他年齢階層より高くなっています。



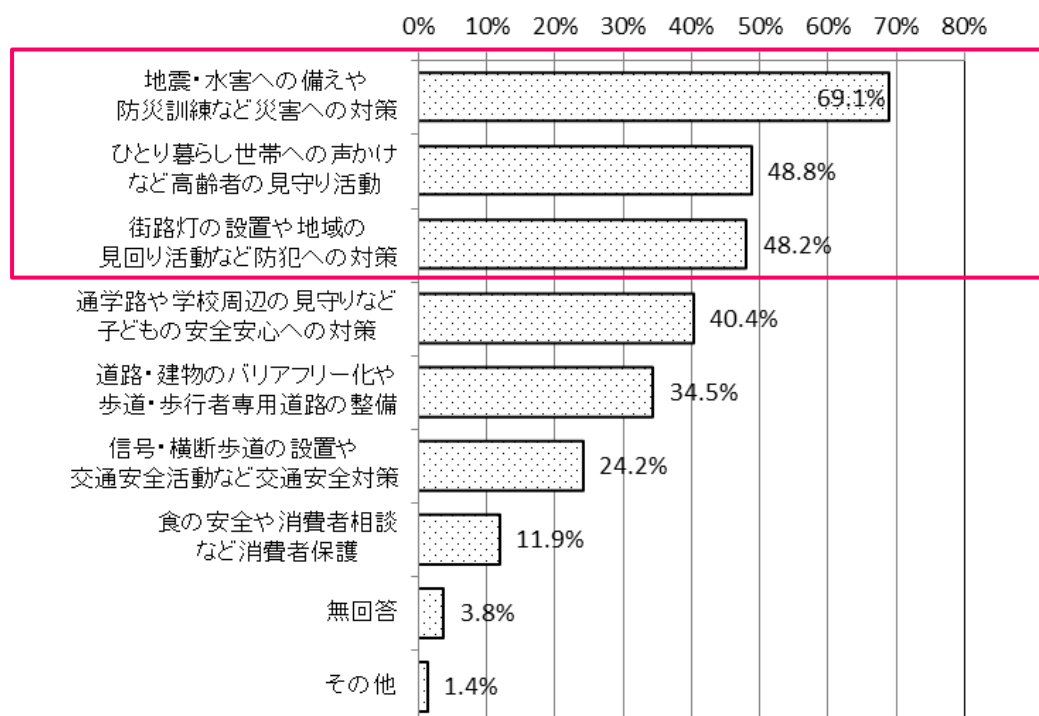
(3) 地域産業の活性化のために、重視すべき取り組み（問 13、複数回答）

- 「産業に関わる人材や後継者の育成」が 54.0%で最も高くなっています。次いで「身近な商店や大規模商業の活性化や利便性の向上」が 45.0%、「近郊農業の効率化や付加価値の高い農業によるブランド力の向上」が 44.2%、「モノづくりのまち」としての知名度の向上」が 42.8%を占めています。
- 「産業振興は必要と思わない」は 2.0%で最も低くなっています。



(4) まちの安全・安心について、重視すべき取り組み（問 14、複数回答）

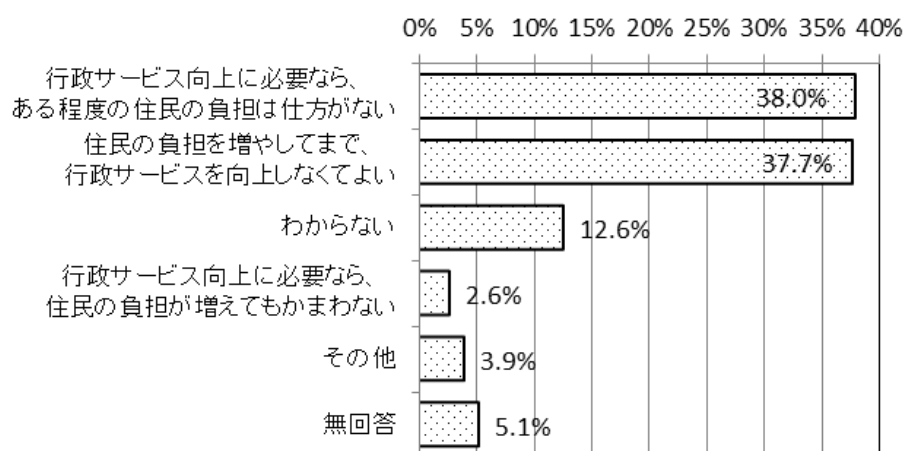
- 「地震・水害への備えや防災訓練など災害への対策」が 69.1%で最も高く、次いで「ひとり暮らし世帯への声かけなど高齢者の見守り活動」が 48.8%、「街路灯の設置や地域の見回り活動など防犯への対策」が 48.2%を占めています。
- 「食の安全や消費者相談など消費者保護」は 11.9%と低くなっています。



5. 行政と住民の協働

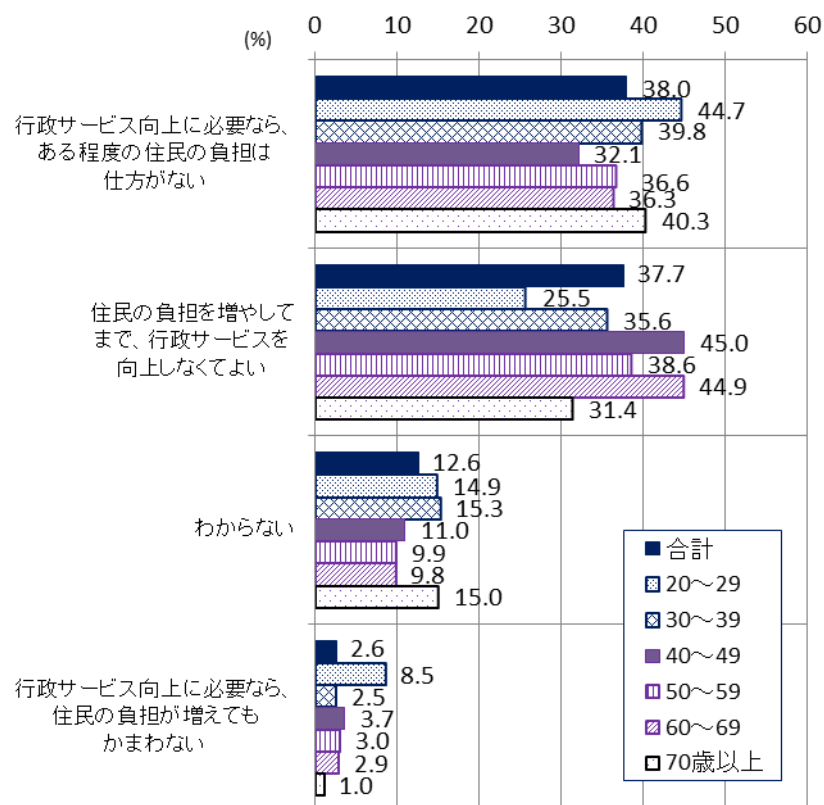
(1) 行政サービスと住民の負担のバランスについて（問 15）

- 「行政サービス向上に必要ななら、ある程度の住民の負担は仕方がない」が 38.0%と高くなっています。一方、「住民の負担を増やしてまで、行政サービスを向上しなくてよい」も 37.7%と高くなっています。



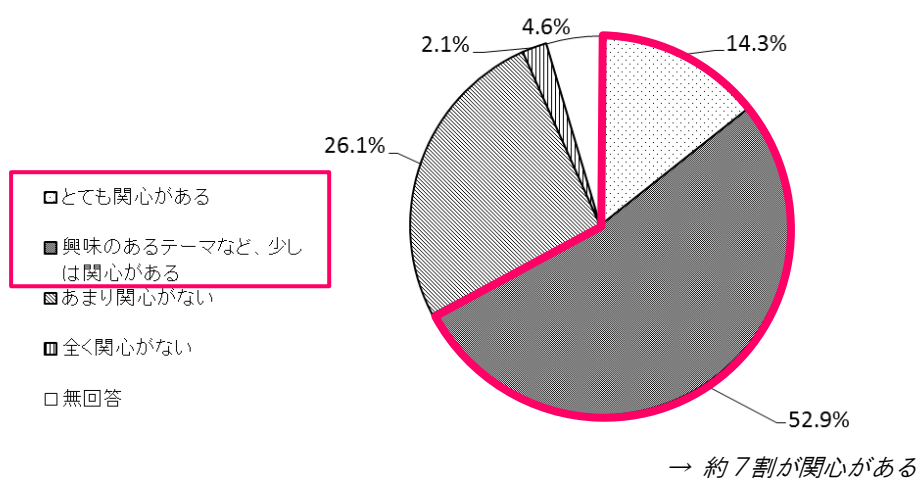
▶ 行政サービスと住民の負担のバランスについて（年齢別集計・主なもの）

- 20～29 歳、30～39 歳、70 歳以上では「行政サービス向上に必要ななら、ある程度の住民の負担は仕方がない」が他年齢階層より高くなっています。特に 20～29 歳では、「住民の負担が増えてもかまわない」と合わせると、53.2%と高くなっています。
- 40～49 歳、50～59 歳、60～69 歳では「住民の負担を増やしてまで、行政サービスを向上しなくてよい」が他年齢階層より高くなっています。



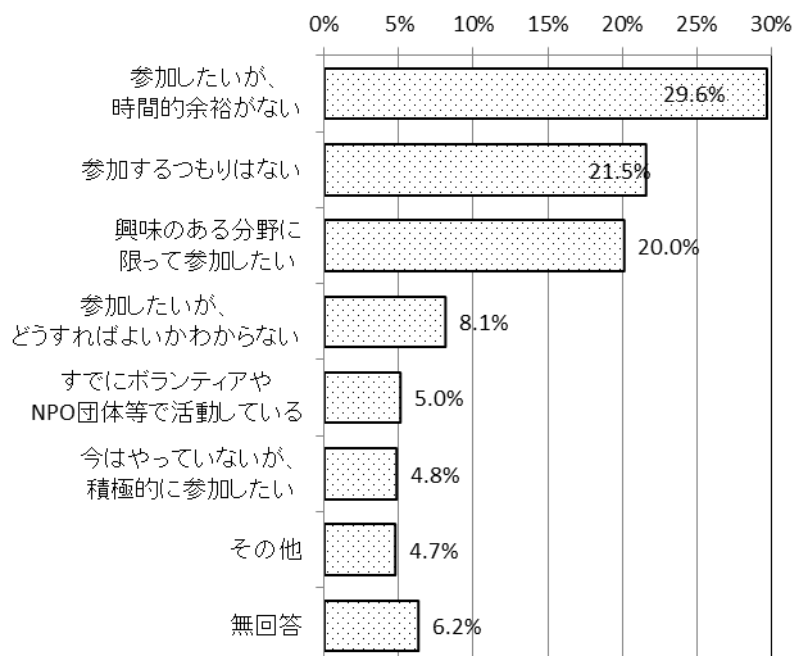
(2) 久御山町内のまちづくりや計画への関心（問 16）

- 「興味のあるテーマなど、少しは関心がある」が 52.9%で過半数を越えて最も高く、次いで「あまり関心がない」が 26.1%となっています。
- 「全く関心がない」は 2.1%で最も低くなっています。



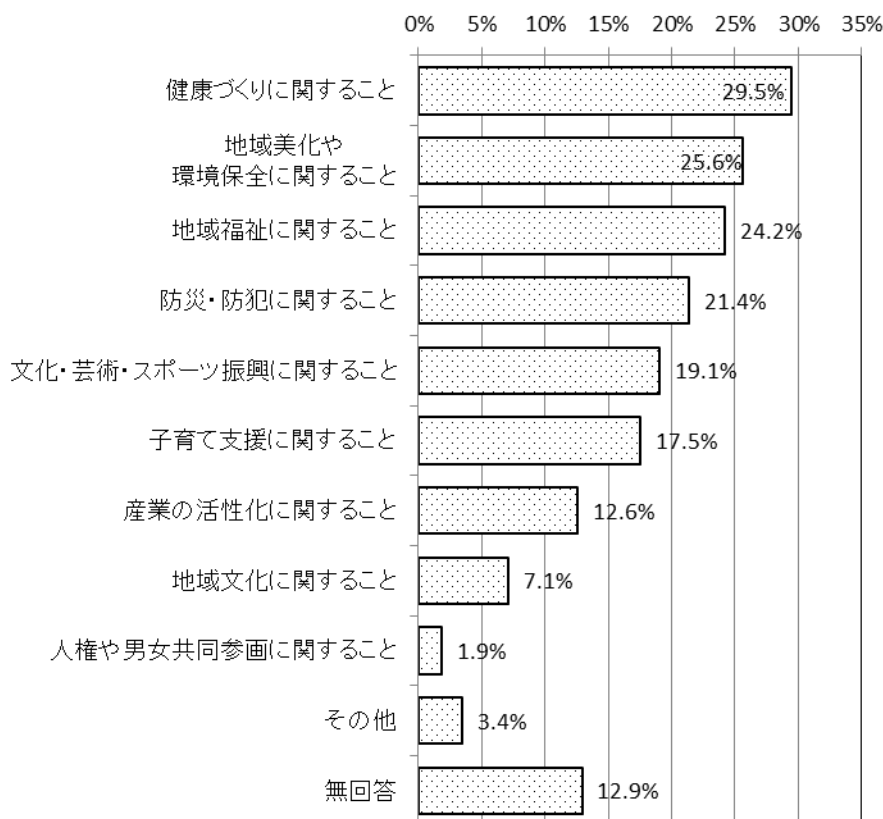
(3) 住民や公益活動団体、事業者及び行政の「協働」への参加（問 17）

- 「参加したいが、時間的余裕がない」が 29.6%で最も高く、次いで「参加するつもりはない」が 21.5%、「興味のある分野に限って参加したい」が 20.0%を占めています。
- 「すでにボランティアや NPO 団体等で活動している」は 5.0%と低くなっています。



(4)「協働」の取り組みに参加したい分野（問 18、複数回答）

- 「健康づくりに関すること」が 29.5%で最も高く、次いで「地域美化や環境保全に関すること」が 25.6%、「地域福祉に関すること」が 24.2%、「防災・防犯に関すること」が 21.4%を占めています。



6. 久御山町の魅力（問 19、自由記述）

- 「守りたい景色・風景」に関する内容が 264 人と最も多く、その中でも「木津川の流れ橋」など木津川に関する意見が最も多く、次いで、田園風景や巨椋池の自然、桜並木が魅力であるという意見があります。
- 次いで、「特産品」に関する内容が 98 人あり、「淀大根」や「九条ネギ」など野菜が魅力であるという意見があります。

主な内容・キーワード（5件以上のもの）	件数
守りたい景色・風景 ・ 木津川の流れ橋、木津川の河川敷と堤防を含む景観 ・ 田植、稲刈りや雪化粧といった四季折々に変容する田園風景 ・ 巨椋池の自然 ・ 東一口、前川堤防、桜並木 ・ 古川の風景 ・ 雙栗神社 など	264
大切にしたい歴史や文化、風習 ・ 町の祭り（地域の祭、ふるさとフェア、福祉まつり、文化祭等） ・ 久御山の歴史・文化・風習 ・ 社寺の歴史 ・ 山田家 など	51
まちの個性・ブランド ・ ゆうホール図書館 ・ イオン ・ 優しさや人情あふれる人柄 など	60
特産品 ・ 淀大根／丸大根 ・ 野菜、トマト、九条ネギ、ホウレンソウ など	98

久御山町まちづくり

中高生アンケート調査結果

I. 調査概要

1. 目的

- 次期総合計画を策定にするに当たり、次世代の久御山町のまちづくりを担う中学生・高校生の意見や提案を伺うため、アンケート調査を実施する。

2. 調査対象

- 久御山町内の中学校・高校に通学する中学3年生・高校3年生。
 - ・ 中学校：久御山中学校3年生
 - ・ 高校：久御山高等学校3年生

3. 調査日

- 平成26年7月上旬

4. 調査方法

- 各クラスの担任より直接配布、直接回収

5. 調査内容

項目	内 容
回答者の属性	○性別、○学校
居住地・住み心地	○居住地、○居住年数、○久御山町の住み心地、 ○卒業後に住みたいところ（定住意向）、○居住先選択で大切なところ
次期総合計画に求めること	○久御山町の将来像、 ○久御山町を安全・安心なまちにしていくために大切だと思う取り組み
久御山町の魅力	○久御山町の魅力
まちづくりへの関心	○住んでいるまちへの興味や関心
自由回答	○自由回答

6. 回収数

	配布数	回収数	有効回収数	（参考）生徒数
全体	459	459	459	477
中学3年生	146	146	146	161
高校3年生	313	313	313	316

※ 配布数は、アンケート実施日の出席者数。

II. 調査結果

1. 回答者の属性

性別・中学高校区分（問1・問2）

	実数			構成比(%)		
	中学生	高校生	合計	中学生	高校生	合計
男性	77	157	234	52.7	50.2	51.0
女性	69	156	225	47.3	49.8	49.0
無回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0
合計	146	313	459	100.0	100.0	100.0

2. 居住地・住み心地

(1) 居住地（問3）

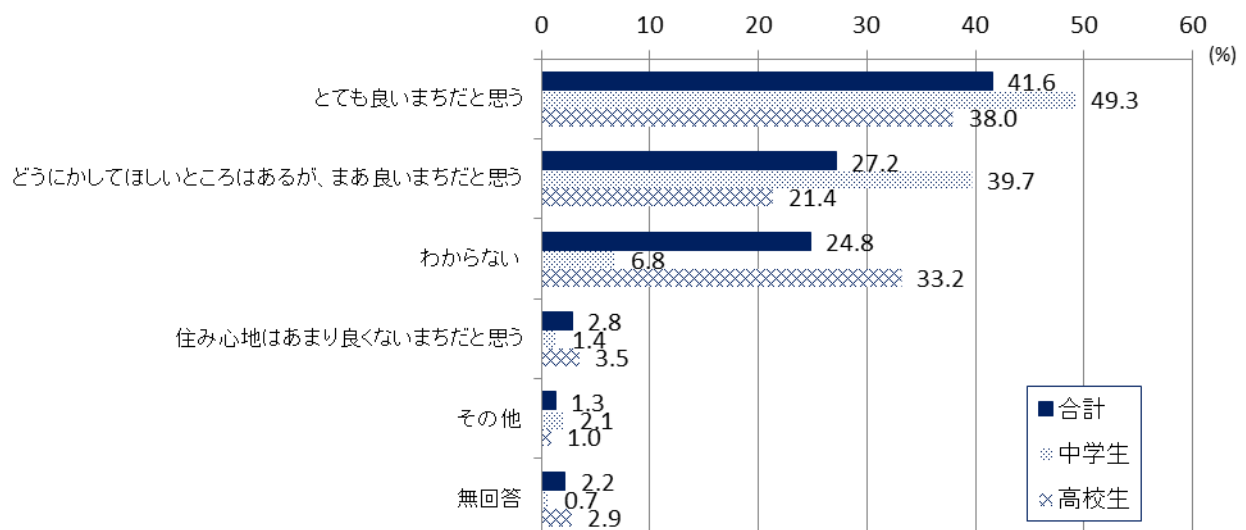
	実数			構成比(%)		
	中学生	高校生	合計	中学生	高校生	合計
御牧校区	30	2	32	20.5	0.6	7.0
佐山校区	45	8	53	30.8	2.6	11.5
東角校区	65	9	74	44.5	2.9	16.1
久御山町外	6	290	296	4.1	92.7	64.5
無回答	0	4	4	0.0	1.3	0.9
合計	146	313	459	100.0	100.0	100.0

(2) 居住年数（問4）

	実数			構成比(%)		
	中学生	高校生	合計	中学生	高校生	合計
5年未満	13	1	14	8.9	0.3	3.1
5年以上10年未満	17	1	18	11.6	0.3	3.9
10年以上	110	16	126	75.3	5.1	27.5
久御山町外に住んでいる	6	283	289	4.1	90.4	63.0
無回答	0	12	12	0.0	3.8	2.6
合計	146	313	459	100.0	100.0	100.0

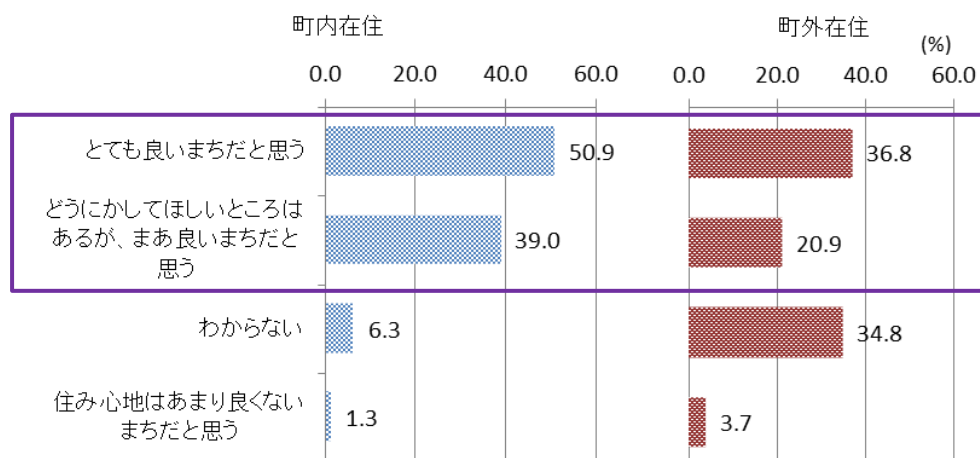
(3) 久御山町の住み心地（問5）

- 全体では、「とても良いまちだと思う」が41.6%と最も高く、次いで、「どうかしてほしいところはあるが、まあ良いまちだと思う」が27.2%と、合わせて約7割（68.8%）が久御山町の住み心地が良いと答えています。
- 中学生では同様に、約9割（89%）が住み心地が良いと答えています。
- 高校生では、「とても良いまちだと思う」が38.0%と最も高くなっていますが、「わからない」が33.2%と2番目に高くなっています。



▶ 久御山町の住み心地（町内外別集計・主なもの）

- 中学生と高校生を合わせた町内外別集計においては、町内在住では、「とても良いまちだと思う」と「どうにかしてほしいところはあるが、まあ良いまちだと思う」で、合わせて約 9 割（89.9%）が久御山町の住み心地が良いと答えています。



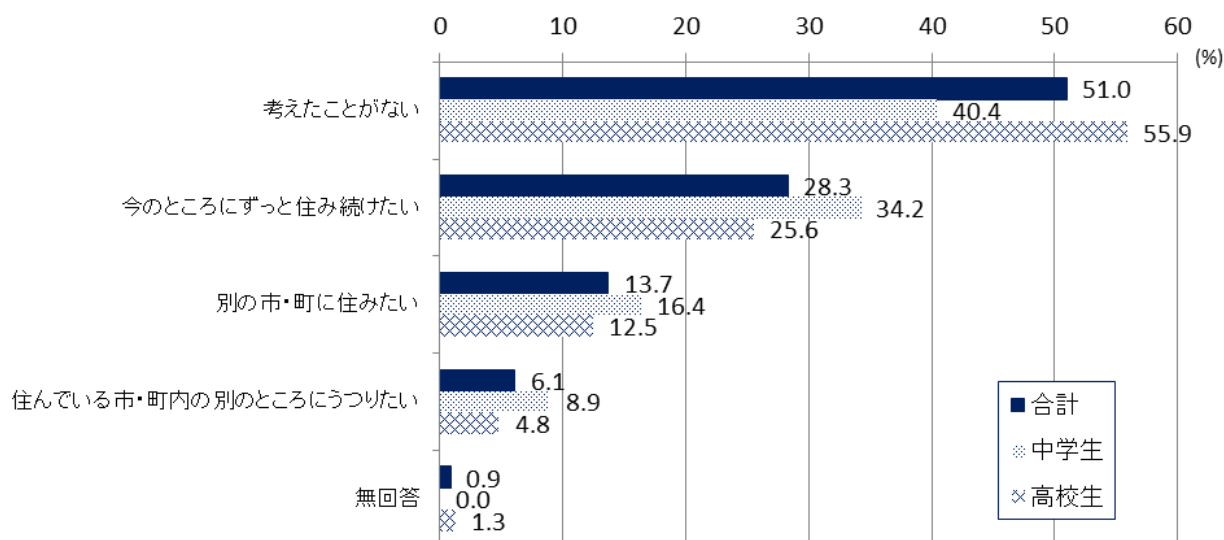
▶ 何か具体的に改善してほしいところ（自由記述）

- 中学生では、「公園・遊び場の整備」が 17 人と最も多く、次いで、「環境改善」が 9 人、「安心安全・防犯」が 6 人と続いています。
- 高校生では、「公共交通の整備」が 15 人と最も多く、次いで、「道路整備」が 9 人、「環境改善」が 7 人と続いています。

	主な内容（5 件以上のもの）	件数
中学生	環境改善 ・工場からの汚い空気、車の排気ガス など	9
	公園・遊び場の整備 ・遊べる場所を増やしてほしい など	17
	安心安全・防犯 ・街灯が少ない など	6
高校生	環境改善 ・工場からのにおい など	7
	公共交通の整備 ・駅が遠い、駅がない、鉄道が欲しい など	15
	道路整備 ・道路が危ない、道路が狭い など	9

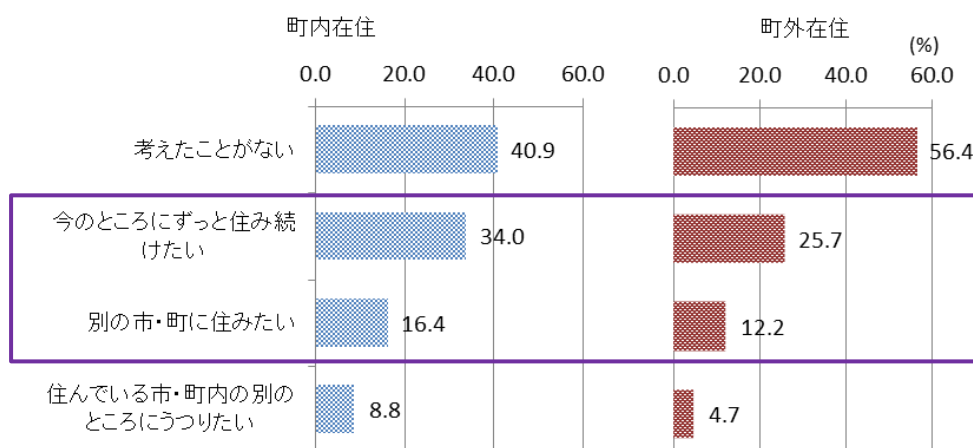
(4) 卒業後に住みたいところ【定住意向】(問6)

- 全体では、「考えたことがない」が51.0%と最も高くなっており、次いで、「今のところに住み続けたい」が28.3%、「別の市・町に住みたい」が13.7%と続きます。
- 中学生では、「今のところに住み続けたい」が34.2%と、高校生の25.6%より高くなっています。



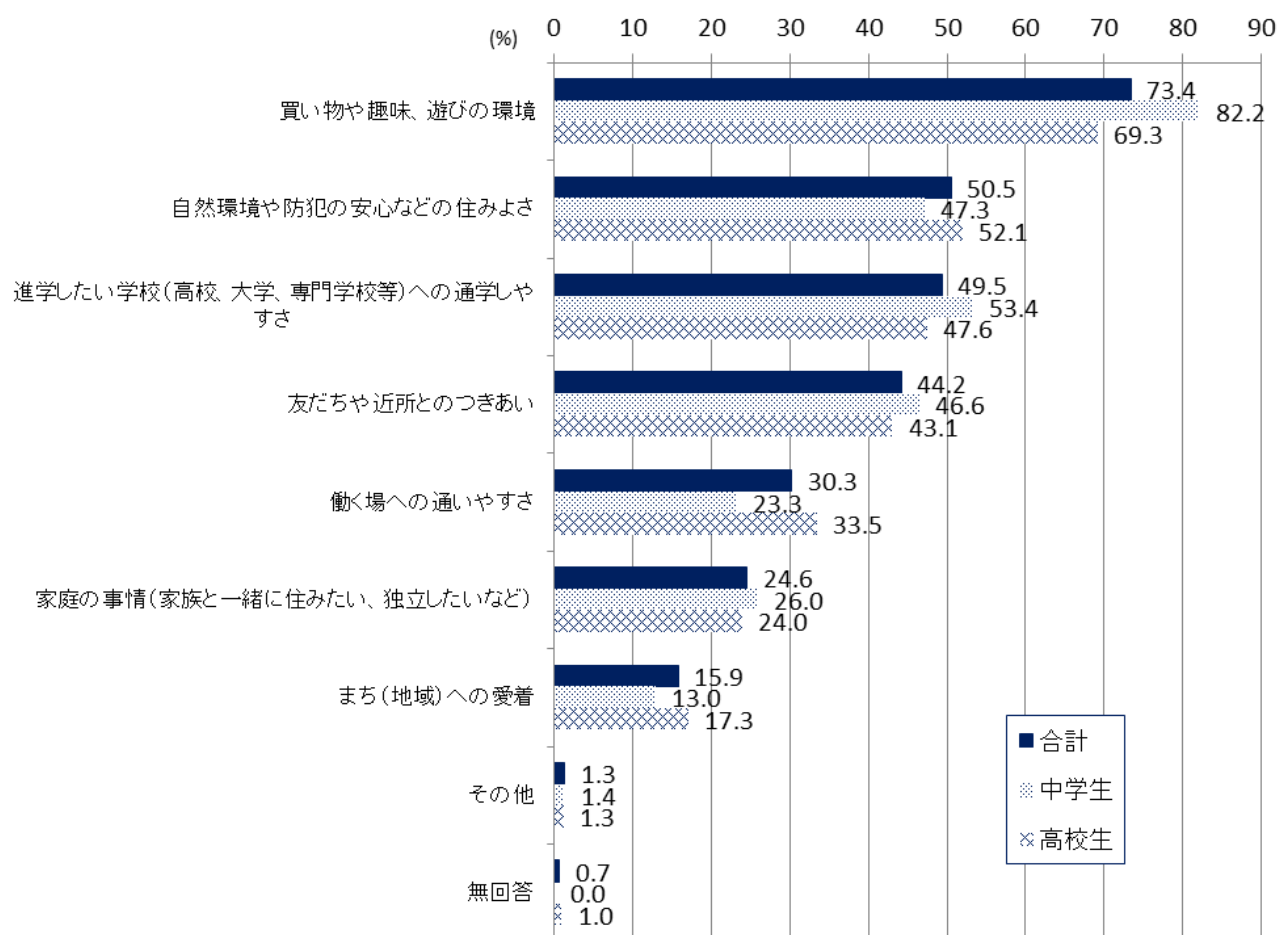
▶ 卒業後に住みたいところ【定住意向】(町内外別集計・主なもの)

- 町内在住では、町外に比べ、「今のところに住み続けたい」が34.0%と高くなっていますが、一方で、「別の市・町に住みたい」も16.4%と町外より高くなっています。



(5) 居住先選択で大切なところ（問7、複数回答）

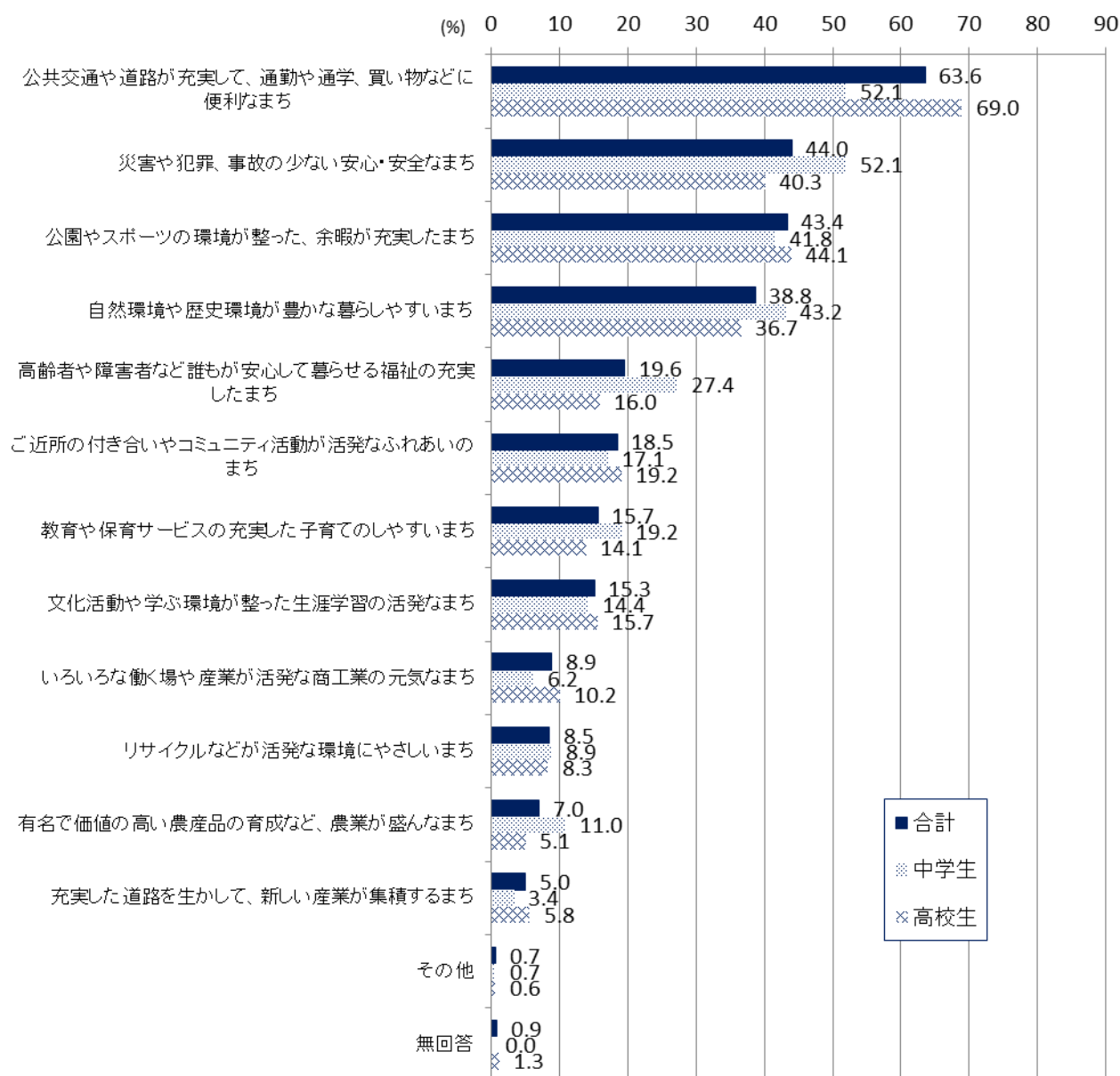
- 全体では、「買い物や趣味、遊びの環境」が73.4%と最も高く、次いで、「自然環境や防犯の安心などの住みよさ」が50.5%、「進学したい学校（高校、大学、専門学校等）への通学しやすさ」が49.5%と後に続きます。「まち（地域）への愛着」は15.9%と最も低くなっています。
- 中学生では、「買い物や趣味、遊びの環境」が82.2%と最も高く、次いで、「進学したい学校（高校、大学、専門学校等）への通学しやすさ」が53.4%、「自然環境や防犯の安心などの住みよさ」が47.3%と後に続きます。
- 高校生では、全体と同様の結果となっています。



3. 次期総合計画に求めること

(1) 久御山町の将来像（問8、複数回答）

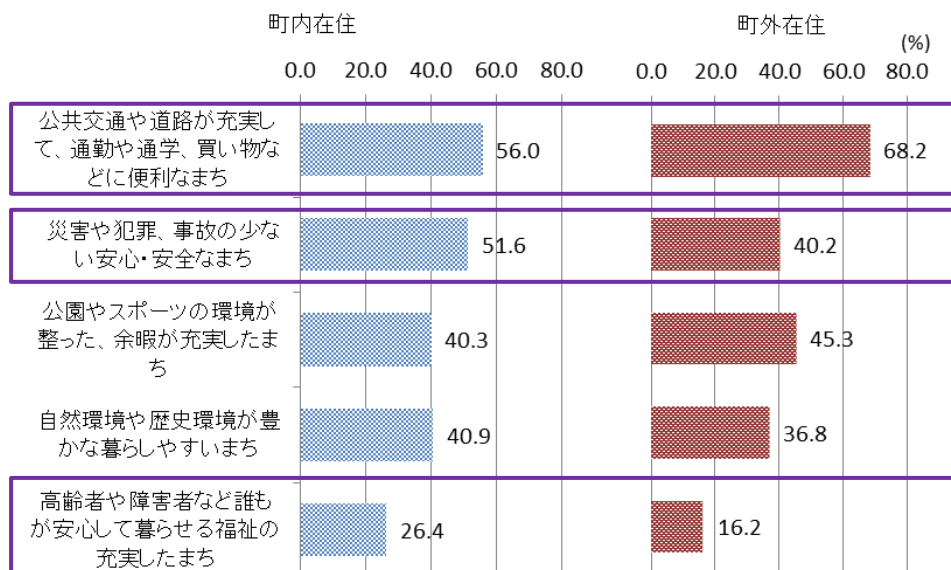
- 全体では、「公共交通や道路が充実して、通勤や通学、買い物などに便利なまち」が63.6%と最も高く、次いで、「災害や犯罪、事故の少ない安心・安全なまち」が44.0%、「公園やスポーツの環境が整った、余暇が充実したまち」が43.4%と後に続きます。
- 中学生では、「公共交通や道路が充実して、通勤や通学、買い物などに便利なまち」と「災害や犯罪、事故の少ない安心・安全なまち」が52.1%と最も高く、次に「自然環境や歴史環境が豊かな暮らしやすいまち」が43.2%と続きます。
- 高校生では、「公共交通や道路が充実して、通勤や通学、買い物などに便利なまち」が69.0%と最も高く、「公園やスポーツの環境が整った、余暇が充実したまち」が44.1%、「災害や犯罪、事故の少ない安心・安全なまち」が40.3%と続きます。



- 10年前調査と比較すると、「災害や犯罪、事故の少ない安心・安全なまち」（H16：60.1%）は約16ポイント減少していますが、「公共交通や道路が充実して、通勤や通学、買い物などに便利なまち」（H16：54.9%）は約9ポイント増加し、今回調査で最も高くなっています。
- 「公園やスポーツの環境が整った、余暇が充実したまち」（H16：42.5%）や「自然環境や歴史環境が豊かな暮らしやすいまち」（H16：38.9%）については、10年前とあまり大きく変化していません。

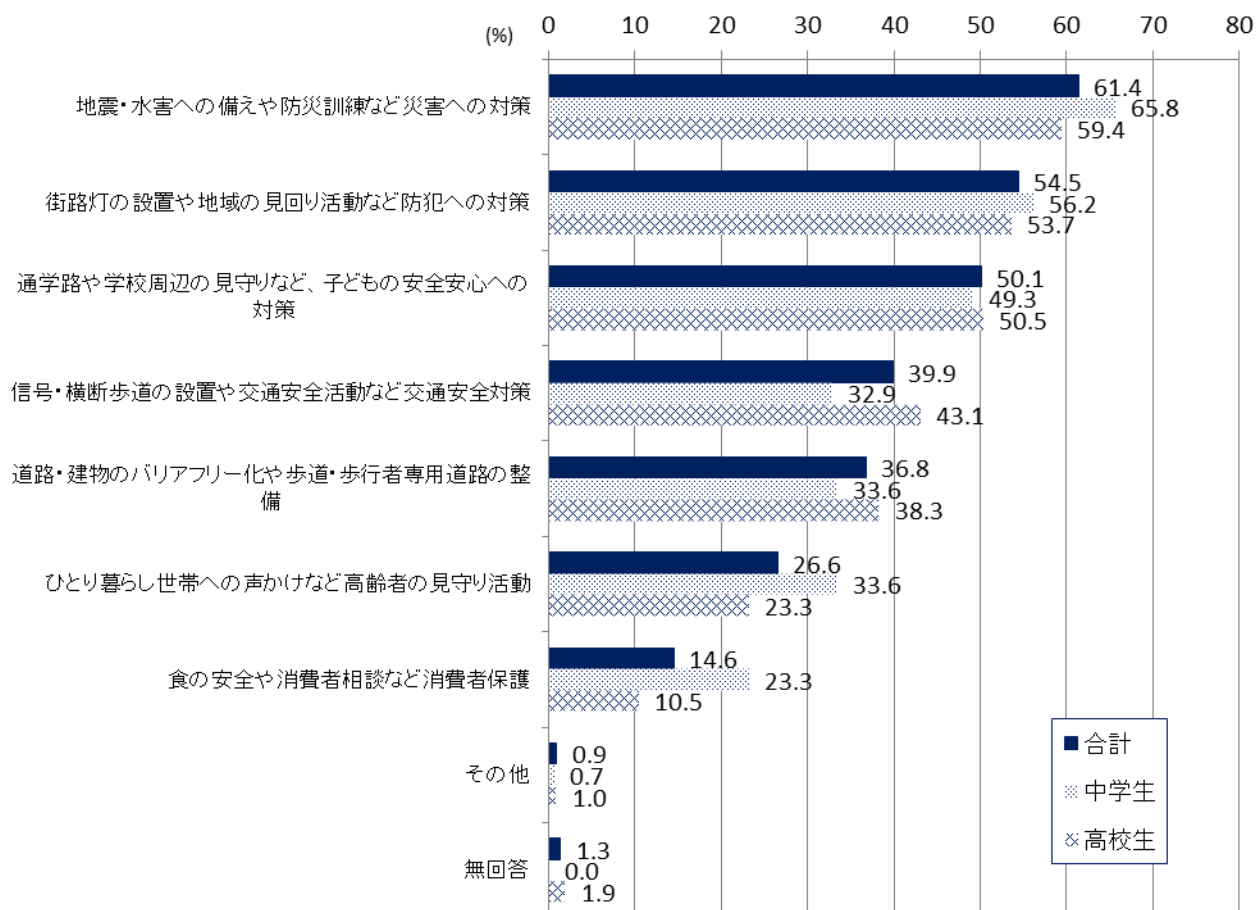
▶ 久御山町の将来像（町内外別集計・主なもの）

- 町内在住では、「災害や犯罪、事故の少ない安心・安全なまち」や「高齢者や障害者など誰もが安心して暮らせる福祉の充実したまち」が町外より高くなっています。
- 町外在住では、「公共交通や道路が充実して、通勤や通学、買い物などに便利なまち」が68.2%と、町内より高くなっています。



(2) 久御山町を安全・安心なまちにしていくために大切だと思う取り組み（問9、複数回答）

- 全体では、「地震・水害への備えや防災訓練など災害への対策」が61.4%と最も高く、次いで、「街路灯の設置や地域の見回り活動など防犯への対策」が54.5%、「通学路や学校周辺の見守りなど、子どもの安全安心への対策」が50.1%と続きます。
- 中学生・高校生とも同様の結果となっています。



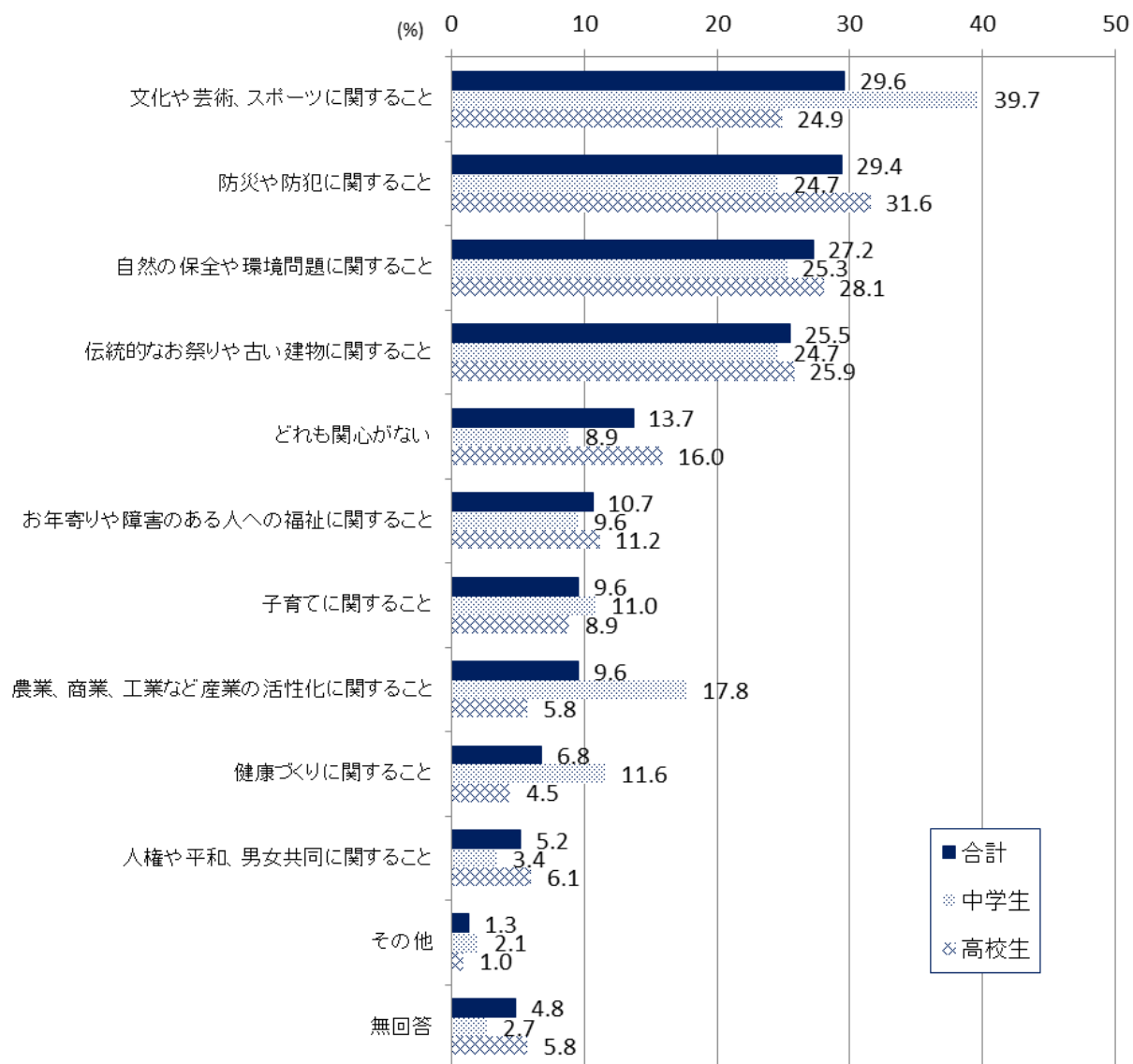
4. 久御山町の魅力（問 10、自由記述）

- 中学生では、「守りたい景色・風景」が 42 人と最も多く、「一面田んぼの風景」、「緑豊かな風景」や「流れ橋」といった魅力があるという意見があります。次いで、「特産品」が 25 人と多く、「野菜」、「ネギ」や「淀だいこん・聖護院だいこん」といった魅力があるという意見があります。
- 高校生では、「好きな場所」が 40 人と最も多く、「久御山高校」、「サッカー部」が魅力であるという意見があります。次いで、「守りたい景色・風景」が 31 人と多く、「田んぼの美しい風景」、「自然の風景」が魅力であるという意見があります。

	主な内容・キーワード（5 件以上のもの）	件数
中学生	好きな場所 ・イオン、町民プール、ゆうホール など	7
	守りたい景色・風景 ・一面田んぼの風景、田舎の雰囲気、田んぼの冬 ・緑豊かな風景、東一口の桜並木、流れ橋 など	42
	大切にしたい歴史や文化、風習 ・雙栗神社の祭り、地域の祭り など	16
	まちの個性・ブランド ・親切な人柄、あいそがよくて話しやすい ・田や畑があって自然豊かなところ など	22
	特産品 ・野菜、ネギ、淀だいこん、聖護院だいこん など	25
高校生	好きな場所 ・久御山高校、サッカー部 ・イオン など	40
	守りたい景色・風景 ・田んぼの美しい風景、自然の風景 など	31
	まちの個性・ブランド ・自然がいっぱい、広大な田畑 ・工場が多い など	19

5. まちづくりへの関心（問 11、複数回答）

- 全体では、「文化や芸術、スポーツに関すること」が 29.6%と最も高く、次いで、「防災や防犯に関すること」が 29.4%、「自然の保全や環境問題に関すること」が 27.2%と後に続きます。
- 中学生では、「文化や芸術、スポーツに関すること」が 39.7%と最も高く、次いで、「自然の保全や環境問題に関すること」が 25.3%、「防災や防犯に関すること」と「伝統的なお祭りや古い建物に関すること」が 24.7%と後に続きます。
- 高校生では、「防災や防犯に関すること」が 31.6%と最も高く、次いで、「自然の保全や環境問題に関すること」が 28.1%、「伝統的なお祭りや古い建物に関すること」が 25.9%と後に続きます。



久御山町まちづくり

はたらく人へのアンケート調査結果

I. 調査概要

1. 目的

- 次期総合計画を策定するに当たり、町内事業所の就業者の久御山町に対する意識・定住意向等について把握し、計画に反映するため、アンケート調査を実施する。

2. 調査対象

- 町内事業所の就業者（主に従業者向け）

3. 調査日

- 平成26年8月18日（月）～9月10日（水）の約3週間

4. 調査方法

- 商工会会員企業（約780社）及び町内企業から抽出した事業所へ調査票を一定部数郵送し、社内で配布・取りまとめいただき、返信用封筒により回収する。
- 町ホームページからアンケート回答ページにアクセスし、入力回答する。

5. 調査内容

項 目	内 容
回答者の属性	○性別、○年齢、○居住地、○勤務年数、○職業
事業所の概要	○事業所の場所、○主な事業、○従業員数、○主な交通手段
久御山町への評価	○久御山町に対する印象、○久御山町に対する期待、 ○久御山町への居住意欲、○住む場所を選ぶときに重視すること、 ○自由回答

6. 回収数

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
（事業所回収数）	368	143	143	38.9%
調査票回収数	-	1,036	1,036	-
調査票による回答	2,806	1,027	1,027	36.6%
ホームページによる回答	-	9	9	-

II. 調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別（問1）

- 「男性」が69.7%を占めており、「女性」（30.2%）の倍以上となっています。

	実数	構成比(%)
男性	722	69.7%
女性	313	30.2%
無回答	1	0.1%
計	1,036	100%

(2) 年齢（問2）

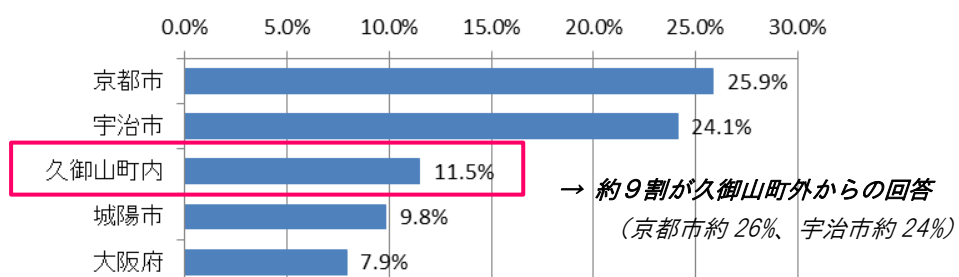
- 「40～49 歳」が31.1%と最も高く、「30～39 歳」の23.9%と「50～59 歳」の21.5%が後に続きます。

	実数	構成比(%)
10歳代	4	0.4%
20～29歳	116	11.2%
30～39歳	248	23.9%
40～49歳	322	31.1%
50～59歳	223	21.5%
60～69歳	105	10.1%
70歳以上	17	1.6%
無回答	1	0.1%
計	1,036	100.0%

(3) 居住地（問3）

- 「京都市」が25.9%と最も大きく、「宇治市」の24.1%と「久御山町内」の11.5%が後に続きます。

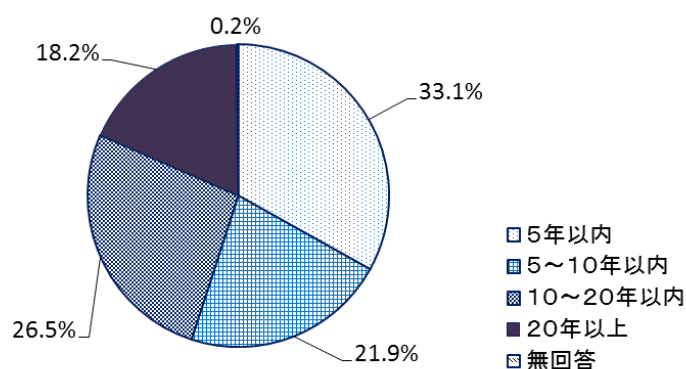
	実数	構成比(%)
京都市	268	25.9%
宇治市	250	24.1%
久御山町内	119	11.5%
城陽市	102	9.8%
大阪府	82	7.9%
その他京都府内	63	6.1%
八幡市	54	5.2%
京田辺市	39	3.8%
滋賀県	38	3.7%
奈良県	16	1.5%
上記以外	2	0.2%
無回答	3	0.3%
計	1,036	100.0%



(4) 勤務年数 (問4)

- 「5年以内」が33.1%と最も高く、次に「10年以上」の26.5%が続きます。
- 一方で、「20年以上」の18.2%が最も低くなっています。

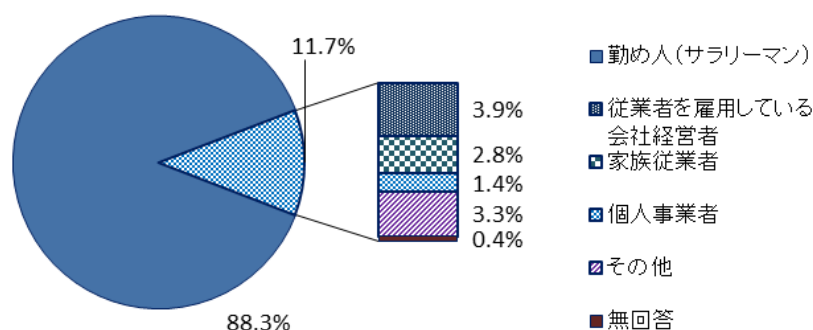
	実数	構成比(%)
5年以内	343	33.1%
5～10年以内	227	21.9%
10～20年以内	275	26.5%
20年以上	189	18.2%
無回答	2	0.2%
計	1,036	100.0%



(5) 職業 (問5)

- 「勤め人 (サラリーマン)」が88.3%とほとんどを占めています。

	実数	構成比(%)
勤め人(サラリーマン)	915	88.3%
従業者を雇用している会社経営者	40	3.9%
家族従業者	29	2.8%
個人事業者	14	1.4%
その他	34	3.3%
無回答	4	0.4%
計	1,036	100.0%



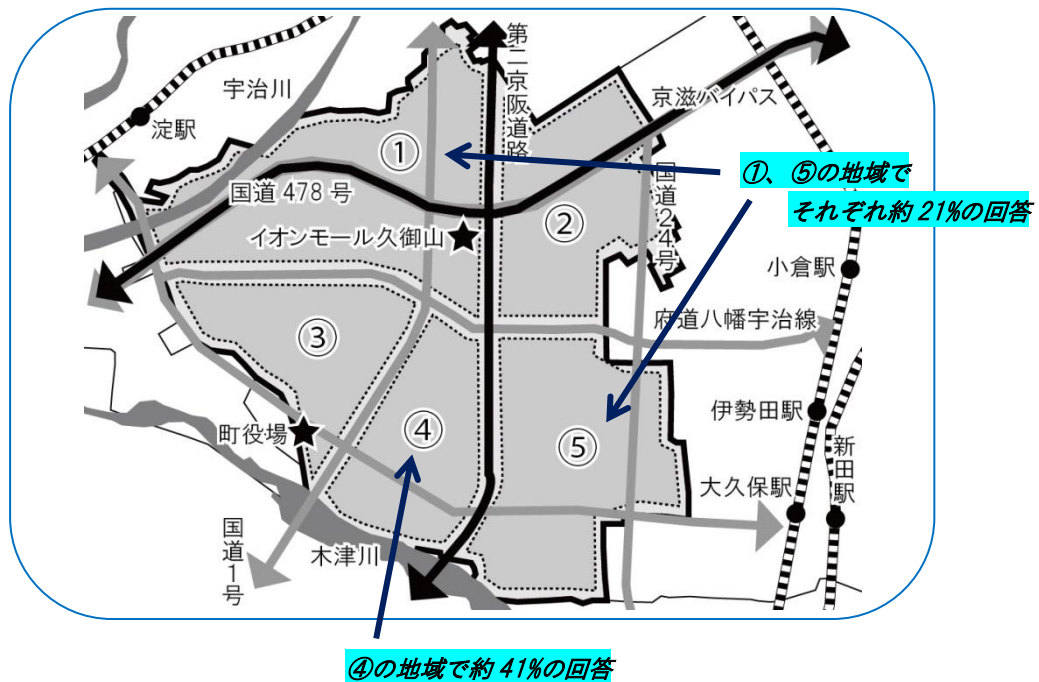
→ 約9割が勤め人 (サラリーマン) からの回答

2. 事業所の概要

(1) 事業所の場所 (問6)

- 「④八幡宇治線南、国道1号・第二京阪の間」が40.7%と最も高く、次に「⑤八幡宇治線南、第二京阪東」の20.7%と「①八幡宇治線北、第二京阪西」の20.5%が続きます。

	実数	構成比(%)
④八幡宇治線南、国道1号・第二京阪の間	422	40.7%
⑤八幡宇治線南、第二京阪東	214	20.7%
①八幡宇治線北、第二京阪西	212	20.5%
③八幡宇治線南、国道1号西	106	10.2%
②八幡宇治線北、第二京阪東	67	6.5%
無回答	15	1.4%
計	1,036	100.0%



(2) 主な事業 (問7)

- 「製造業」が51.5%と過半数を占めており、次に「商業・サービス業」が「22.9%」と高くなっています。

	実数	構成比(%)
製造業	534	51.5%
商業・サービス業	237	22.9%
その他	103	9.9%
無回答	162	15.6%
計	1,036	100.0%

(3) 従業員数 (正社員と派遣、パート、アルバイト等の合計) (問8)

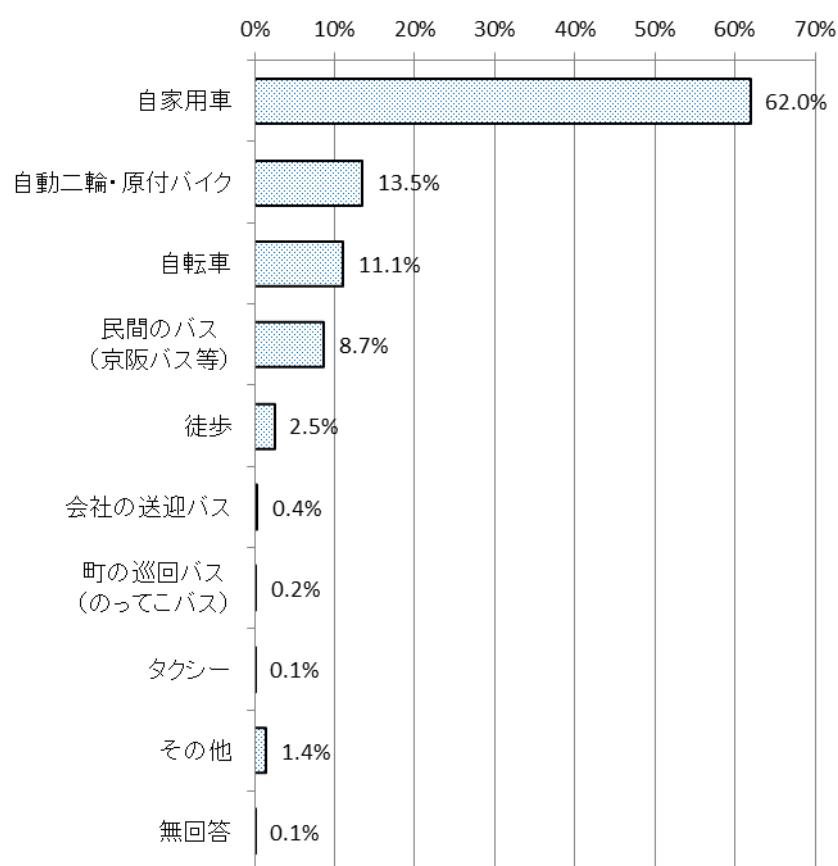
- 「10～29人」が32.6%と最も高く、次に「30～99人」の27.8%と「100人以上」の26.1%が後に続きます。

	実数	構成比(%)
1～9人	134	12.9%
10～29人	338	32.6%
30～99人	288	27.8%
100人以上	270	26.1%
無回答	6	0.6%
計	1,036	100.0%

(4) 主な交通手段（問9）

- 「自家用車」が62.0%と最も高くなっています。次いで「自動二輪・原付バイク」が13.5%、「自転車」が11.1%と続き、「民間のバス（京阪バス等）」は8.7%です。

	実数	構成比(%)
自家用車	642	62.0%
自動二輪・原付バイク	140	13.5%
自転車	115	11.1%
民間のバス(京阪バス等)	90	8.7%
徒歩	26	2.5%
会社の送迎バス	4	0.4%
町の巡回バス(のってこバス)	2	0.2%
タクシー	1	0.1%
その他	15	1.4%
無回答	1	0.1%
計	1,036	100.0%



▶ 主な交通手段（居住地別集計・主なもの）

- 居住地別では、町外に居住する人は「自家用車」「民間のバス」が町内に居住する人より高くなっています。町内に居住する人は「自転車」が32.8%を占めています。

	構成比		
	町内居住	町外居住	合計
自家用車	36.1%	65.3%	62.0%
自動二輪・原付バイク	12.6%	13.6%	13.5%
自転車	32.8%	8.3%	11.1%
民間のバス(京阪バス等)	0.8%	9.7%	8.7%

▶ 主な交通手段（年齢別集計・主なもの）

- 年齢別では、10・20歳代及び30歳代において「自家用車」が他年齢階層より低く、「自動二輪・原付バイク」「自転車」「民間のバス」が高くなっています。

	構成比					
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計
自家用車	41.7%	59.3%	68.9%	63.2%	67.2%	62.0%
自動二輪・原付バイク	19.2%	16.9%	11.5%	13.5%	6.6%	13.5%
自転車	13.3%	12.9%	10.6%	9.4%	9.8%	11.1%
民間のバス(京阪バス等)	19.2%	8.5%	6.2%	8.5%	5.7%	8.7%

▶ 主な交通手段（事業所の場所別集計・主なもの）

- 事業所の場所別では、④の地域では「自家用車」が他の地域より高くなっています。一方、⑤の地域では「自家用車」が他の地域より低く、「自動二輪・原付バイク」「自転車」「民間のバス」が高くなっています。

	構成比(場所無回答除く)					
	①八幡宇治線北、第二京阪西	②八幡宇治線北、第二京阪東	③八幡宇治線南、国道1号西	④八幡宇治線南、国道1号・第二京阪の間	⑤八幡宇治線南、第二京阪東	合計
自家用車	66.0%	58.2%	55.7%	70.4%	46.7%	62.2%
自動二輪・原付バイク	11.8%	11.9%	15.1%	11.4%	18.7%	13.4%
自転車	10.4%	14.9%	9.4%	8.8%	15.9%	11.1%
民間のバス(京阪バス等)	6.6%	3.0%	12.3%	7.6%	13.1%	8.7%

▶ 主な交通手段（従業員数別集計・主なもの）

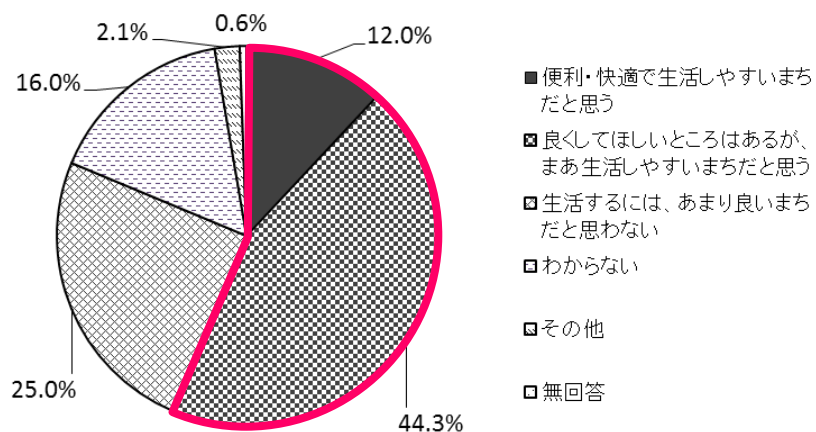
- 従業員数別では、10～29人と30～99人では「自動二輪・原付バイク」が高く、100人以上では「民間のバス」が高くなっています。

	構成比(従業員数無回答除く)				
	1～9人	10～29人	30～99人	100人以上	合計
自家用車	59.0%	58.6%	66.3%	63.3%	62.0%
自動二輪・原付バイク	8.2%	16.3%	18.4%	7.8%	13.6%
自転車	14.9%	11.5%	10.1%	10.0%	11.2%
民間のバス(京阪バス等)	3.7%	10.4%	3.1%	15.2%	8.7%

3. 久御山町への評価

(1) 久御山町に対する印象（問 10）

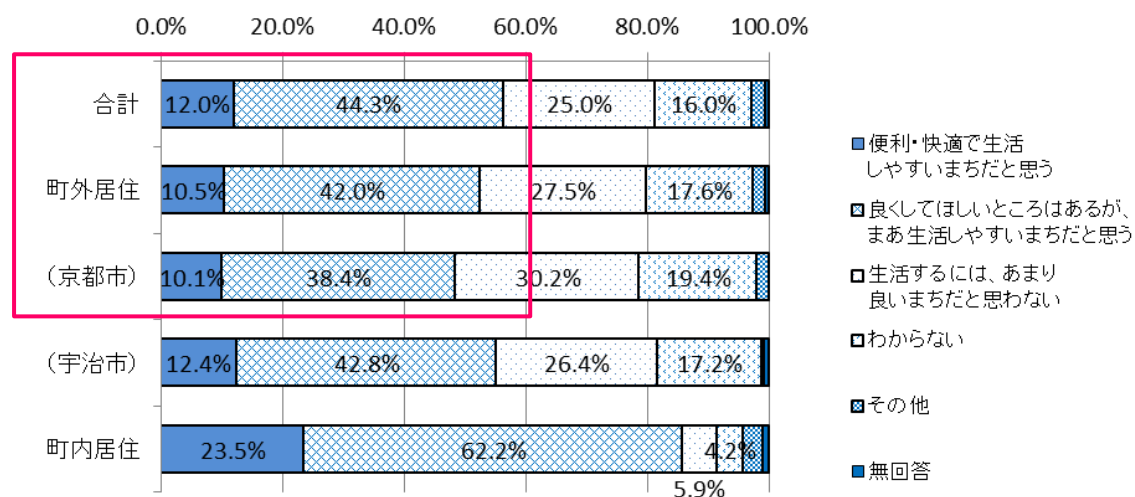
- 町の印象について、「良くしてほしいところはあるが、まあ生活しやすいまちだと思う」が 44.3%と最も高くなっており、「便利・快適で生活しやすいまちだと思う」と合わせると、「生活しやすいまち」が 56.3%を占めています。
- 一方、「生活するには、あまり良いまちだと思わない」は 25.0%を占めています。



→ 約 56%は生活しやすいまち

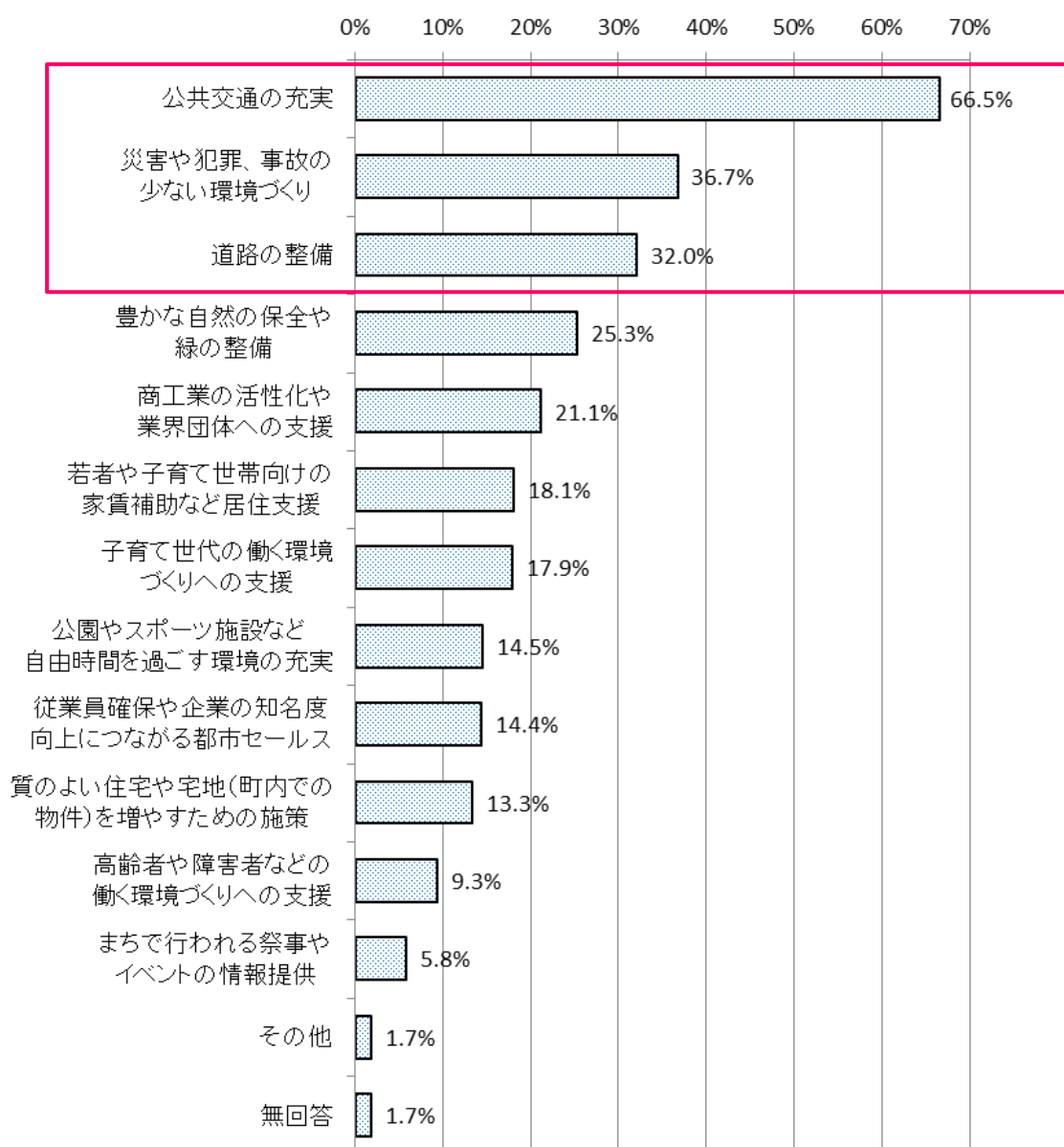
▶ 久御山町に対する印象（居住地別集計）

- 全体では、56.3%が「生活しやすいまち」と回答していますが、町外に居住する人は 52.5%と低くなり、特に京都市に居住する人は、48.5%となっています。



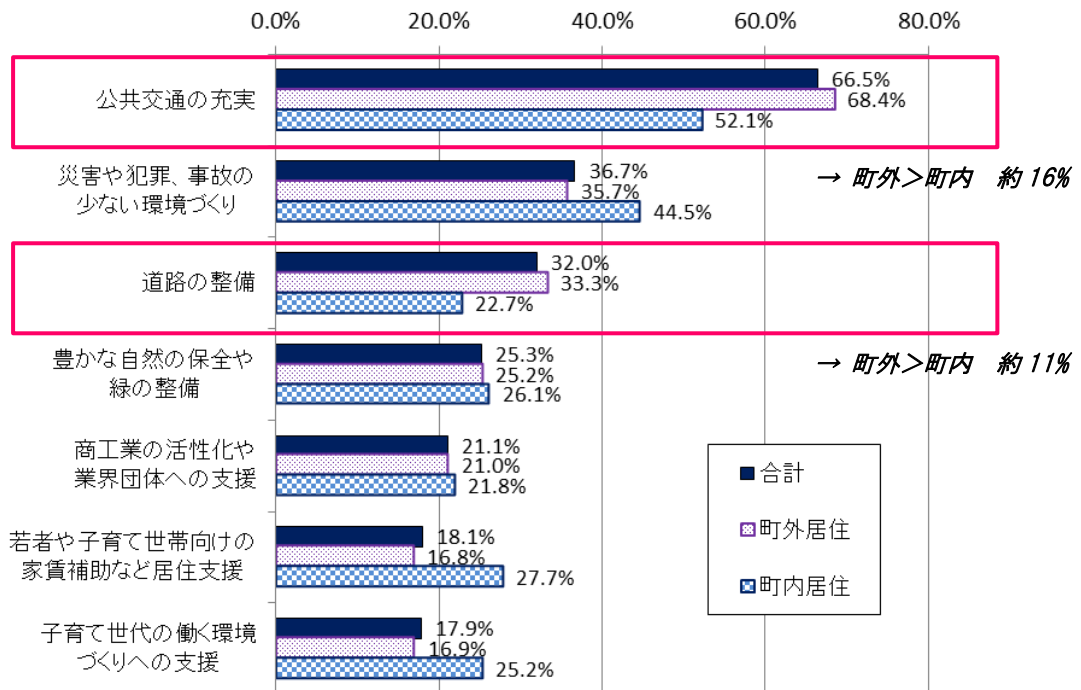
(2) 久御山町に対する期待（問 11、複数回答）

- 町に対する期待について、「公共交通の充実」が 66.5%と最も高く、次に「災害や犯罪、事故の少ない環境づくり」の 36.7%と「道路の整備」の 32.0%が続きます。
- その一方で、「まちで行われる祭事やイベントの情報提供」が 5.8%、「高齢者や障害者などの働く環境づくりへの支援」が 9.3%とそれぞれ低くなっています。



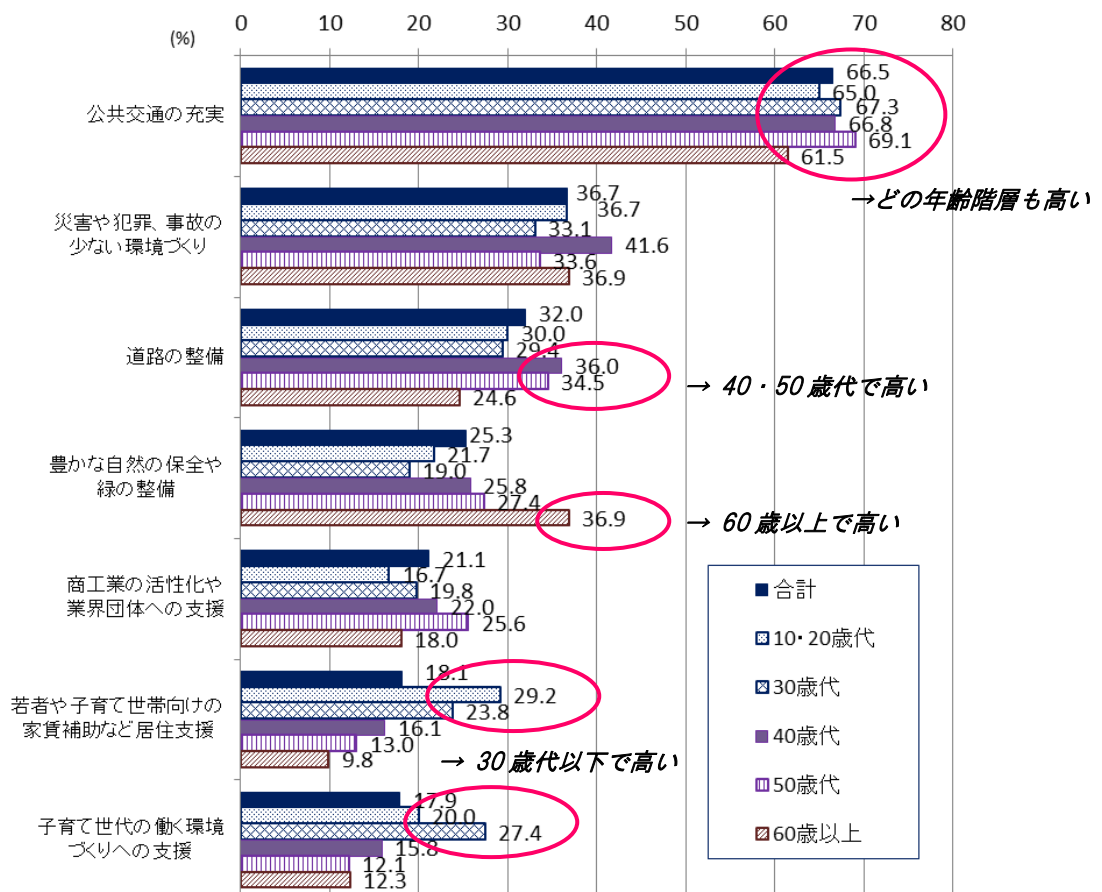
▶ 久御山町に対する期待（居住地別集計・主なもの）

- 町外に居住する人が、町内に居住する人より大きく期待されているものは、「公共交通の充実」（町外：68.4%、町内：52.1%）、「道路の整備」（町外：33.3%、町内：22.7%）があります。



▶ 久御山町に対する期待（年齢別集計・主なもの）

- 年齢別では、10・20歳代及び30歳代において「若者や子育て世帯向けの家賃補助など居住支援」や「子育て世代の働く環境づくりへの支援」が高く、60歳以上では「豊かな自然の保全や緑の整備」が他年齢階層より高くなっています。



▶ 久御山町に対する期待（事業所の場所別集計・主なもの）

- 事業所の場所別では、②及び③の地域では、「公共交通の充実」に対する期待が特に高くなっています。

構成比（場所無回答除く）

	①八幡宇治 線北、第二京 阪西	②八幡宇治 線北、第二京 阪東	③八幡宇治 線南、国道1 号西	④八幡宇治 線南、国道1 号・第二京阪 の間	⑤八幡宇治 線南、第二京 阪東	合計
公共交通の充実	61.8%	74.6%	75.5%	67.3%	63.1%	66.6%
災害や犯罪、事故の少ない環境づくり	36.3%	25.4%	36.8%	37.9%	38.8%	36.8%
道路の整備	28.8%	32.8%	36.8%	32.7%	31.3%	32.0%

▶ 久御山町に対する期待（従業員数別集計・主なもの）

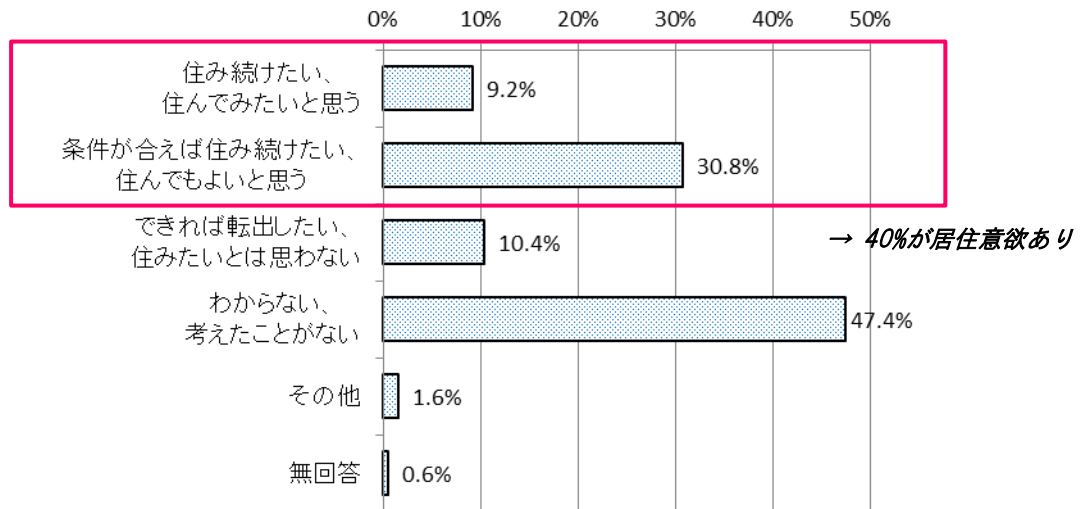
- 従業員数別では、30～99人と100人以上では、「公共交通の充実」に対する期待が特に高くなっています。

構成比（従業員数無回答除く）

	1～9人	10～29人	30～99人	100人以上	合計
公共交通の充実	56.7%	63.9%	70.5%	70.7%	66.6%
災害や犯罪、事故の少ない環境づくり	38.8%	35.8%	34.4%	38.9%	36.6%
道路の整備	23.1%	34.9%	34.0%	31.1%	32.1%

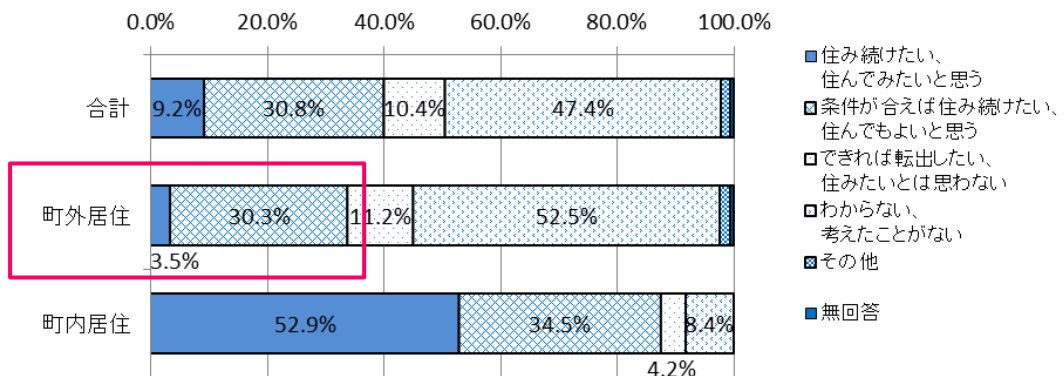
(3) 久御山町への居留意欲（問 12）

- 町への居留意欲について、「わからない、考えたことがない」が 47.4%と最も高いですが、「住み続けたい、住んでみたいと思う」が 9.2%、「条件が合えば住み続けたい、住んでもよいと思う」が 30.8%で、合わせて 40%が町への居留意欲があります。



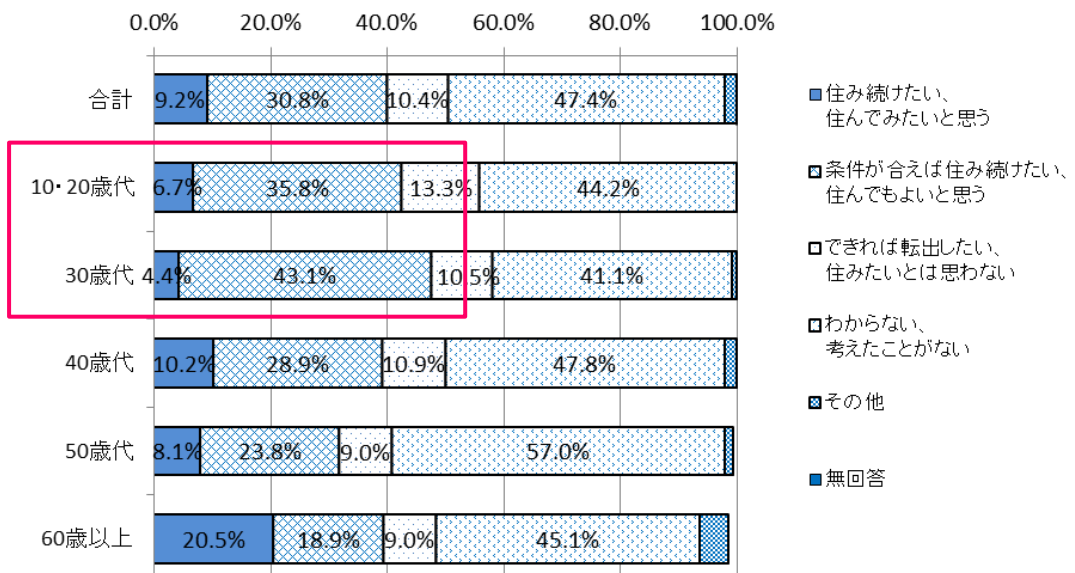
▶ 久御山町への居留意欲（居住地別集計）

- 全体では 40%が町への居留意欲がありますが、町外に居住する人では 33.8%となります。



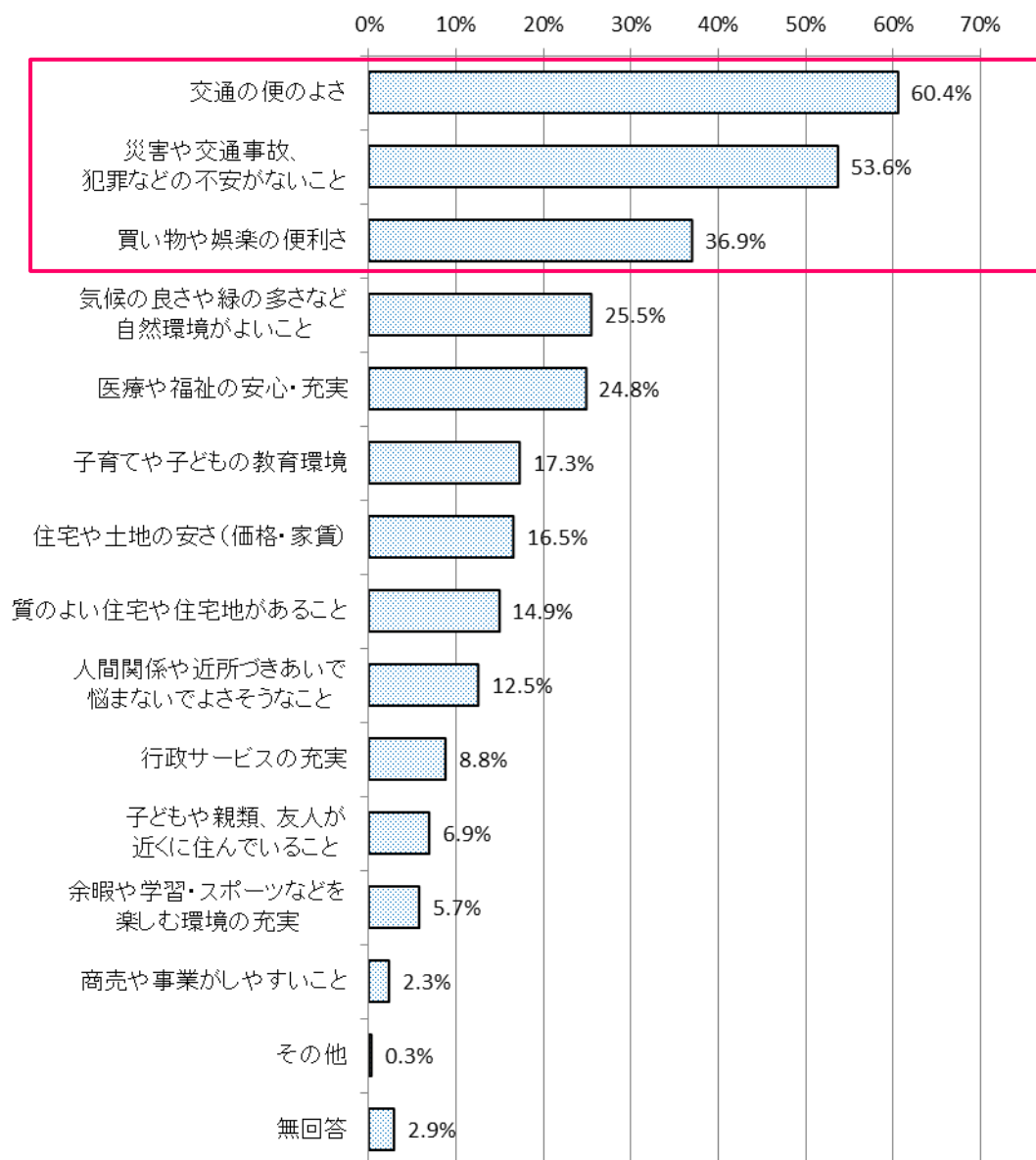
▶ 久御山町への居留意欲（年齢別集計）

- 年齢別では、10・20 歳代では 42.5%、30 歳代では 47.5%と高い居留意欲があります。



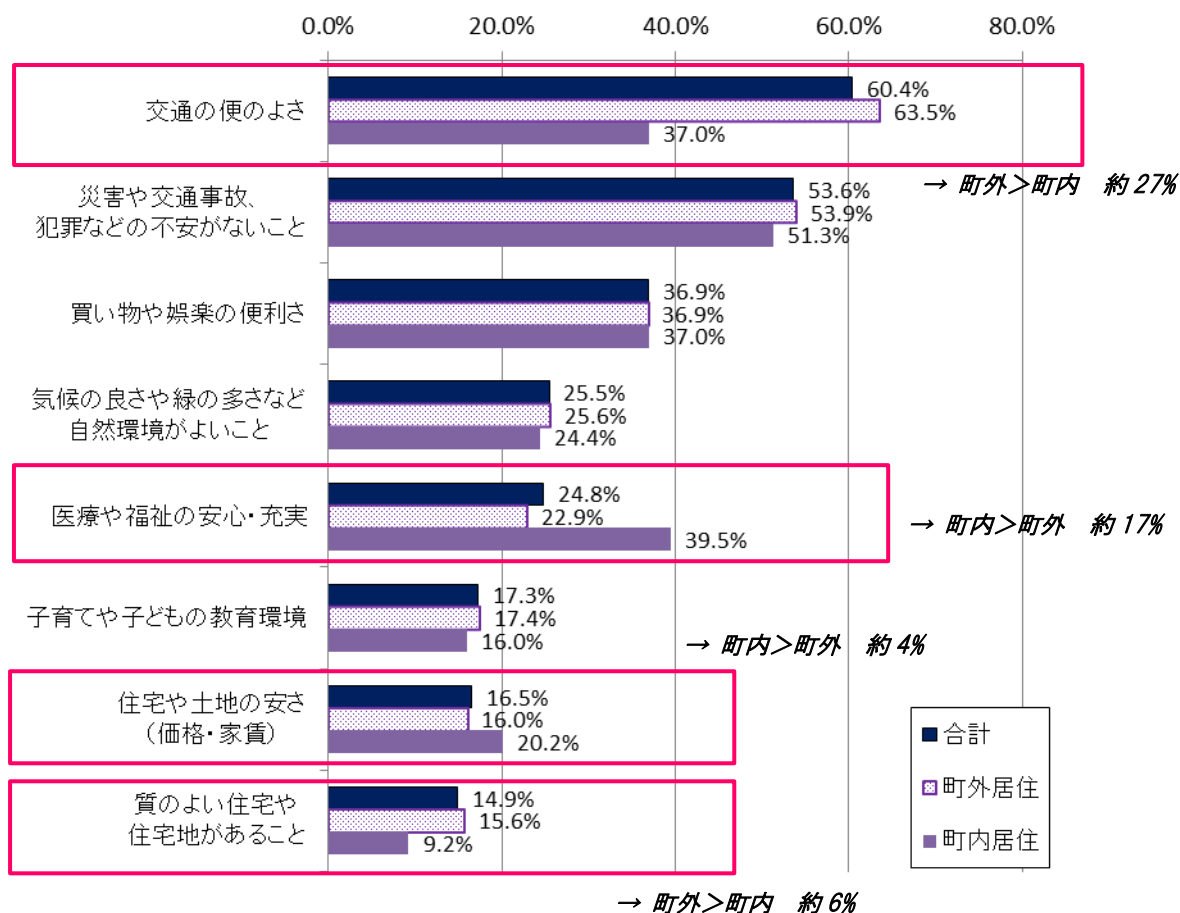
(4) 住む場所を選ぶときに重視すること（問 13、複数回答）

- 住む場所を選ぶときに重視することでは、「交通の便のよさ」が 60.4%と最も大きく、次に「災害や交通事故、犯罪などの不安がないこと」の 53.6%と「買い物や娯楽の便利さ」の 36.9%が続きます。
- その一方で、「商売や事業がしやすいこと」と「余暇や学習・スポーツなどを楽しむ環境の充実」がそれぞれ、2.3%と 5.7%と低くなっています。



▶ 住む場所を選ぶときに重視すること（居住地別集計・主なもの）

- 町外に居住する人が町内に居住する人より特に重視していることは、「交通の便のよさ」（町外：63.5%、町内：37.0%）や「質のよい住宅や住宅地があること」（町外：15.6%、町内：9.2%）があります。
- 一方、町内に居住する人が町外に居住する人より特に重視していることは、「医療や福祉の安心・充実」（町外：22.9%、町内：39.5%）や「住宅や土地の安さ（価格・家賃）」（町外：16.0%、町内：20.2%）があります。



▶ 住む場所を選ぶときに重視すること（年齢別集計・主なもの）

- 年齢別では、10・20歳代では「交通の便のよさ」や「買い物や娯楽の便利さ」、「住宅や土地の安さ（価格・家賃）」が高く、30歳代では「買い物や娯楽の便利さ」、「子育てや子どもの教育環境」や「住宅や土地の安さ（価格・家賃）」が他年齢階層より高くなっています。

